

専門科目 (言語聴覚障害コース開講)

【科目名】		摂食・嚥下障害学総論		【担当教員】	井上 誠、辻村 恭憲、真柄 仁
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	Dbmhs101	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	井上：inoue@dent.niigata-u.ac.jp 辻村：tsujimura@dent.niigata-u.ac.jp 真柄：jin-m@dent.niigata-u.ac.jp	
【単位数】	2	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 来学時の授業終了後に対応	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
本講義は、疾患にもとづく検査と診断から、リハビリテーションにいたるまでの臨床科目というだけでなく、生活弱者を支える栄養支援や環境設定などの幅広い知識を必要とする。十分な事前の学習を必要とするが、不明な点は講義中、講義後に積極的に質問をするなどの対応をしてもらいたい。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
遅刻・無断欠席のないようにすること。授業中の質問や疑問などを積極的に行い、授業への主体的な参加を心がけること。					
【講義概要】					
(目的)					
正常な摂食嚥下機能及びその神経性制御機構を学んだ後、神経機序からみた嚥下障害の理解へとつなげる。種々の疾患を原因とする摂食嚥下障害の病因、複雑な構造と機能障害について病態生理学的な理解を深める。摂食嚥下障害の検査及びリハビリテーションについての知識を深め、臨床応用へとつなげるだけでなく、一生涯健康に食べることの意義について考えていく。専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。					
(方法)					
主として配付資料及び参考図書を使用して講義を行う。毎回の確認テストを行い、回収後に解答の解説を行う。					
【一般教育目標(GIO)】					
摂食嚥下障害の病態を把握するために、摂食嚥下機能に関する正常像と障害像について理解を深める。 摂食嚥下障害の臨床アプローチを把握するために必要な検査、診断、リハビリテーションの流れを理解する。					
【行動目標(SBO)】					
摂食嚥下機能の正常像と病態像を説明する。 摂食嚥下機能障害者に対する臨床的アプローチの手段を説明できる。 摂食嚥下障害の病態像や疾患を取り巻く社会状況に関する新たな知見について説明できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
毎回資料を配付する。					
【参考書】					
摂食嚥下リハビリテーション第4版(才藤栄一・植田耕一郎監修) 医歯薬出版					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は、出席(30%)ならびにレポート(70%)で評価を行う。本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				70				30	100
評価 指標	取り込む力・知識			50					50
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							30	30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	総論	講義（井上）	準備：これまで学修してきた摂食嚥下障害に関する内容の整理.	180分
2	摂食嚥下機能に関わる神経解剖	講義（井上）	準備：摂食嚥下，解剖，生理等の知識の整理. 事後：授業内容の整理（摂食嚥下機能に関わる末梢神経解剖）.	それぞれ 90分
3	摂食嚥下機能を支える中枢メカニズム	講義（井上）	準備：摂食嚥下，解剖，生理等の知識の整理. 事後：授業内容の整理（摂食嚥下機能に関わる中枢神経解剖）.	それぞれ 90分
4	摂食嚥下障害の原因疾患総論	講義（井上）	準備：これまでに学修してきた関連領域（摂食嚥下障害）の知識の整理. 事後：授業内容の整理（原因疾患）.	それぞれ 90分
5	摂食嚥下障害の診断に必要な検査とその方法	講義（井上）	準備：これまでに学修してきた関連領域（摂食嚥下の検査）の知識の整理. 事後：学修内容の知識の整理ならびに臨床への展開をまとめる.	それぞれ 90分
6	障害の考え方と摂食嚥下リハビリテーション	講義（井上）	準備：これまでに学修してきた関連領域（リハビリテーション論）の知識の整理. 事後：学修内容の知識の整理ならびに臨床への展開をまとめる.	それぞれ 90分
7	摂食嚥下リハビリテーションに必要なチームアプローチと各職種の役割	講義（井上）	準備：これまでに学修してきた関連領域（チームアプローチと多職種連携）の知識の整理 事後：学修内容の知識の整理ならびに臨床への展開をまとめる.	それぞれ 90分
8	加齢に伴う摂食嚥下機能の減退	講義（井上）	準備：これまでに学修してきた関連領域（摂食の加齢変化）の知識の整理. 事後：学修内容の知識の整理ならびに臨床への展開をまとめる.	それぞれ 90分

9	脳血管疾患に伴う摂食嚥下障害	講義（井上）	準備：これまでに学修してきた関連領域（脳血管疾患の摂食嚥下障害）の知識の整理。 事後：学修内容のまとめ。	それぞれ 90分
10	神経疾患に伴う摂食嚥下障害	講義（井上）	準備：これまでに学修してきた関連領域（神経疾患の摂食嚥下障害）の知識の整理。 事後：学修内容のまとめ。	それぞれ 90分
11	呼吸機能と呼吸器疾患に伴う摂食嚥下障害	講義（辻村）	準備：これまでに学修してきた関連領域（呼吸器疾患の摂食嚥下障害）の知識の整理。 事後：学修内容のまとめ。	それぞれ 90分
12	小児（発達障害、先天異常）の摂食嚥下障害	講義（辻村）	準備：これまでに学修してきた関連領域（小児の摂食嚥下障害）の知識の整理。 事後：学修内容のまとめ。	それぞれ 90分
13	消化器疾患に伴う摂食嚥下障害	講義（真柄）	準備：これまでに学修してきた関連領域（消化器疾患の摂食嚥下障害）の知識の整理。 事後：学修内容のまとめ。	それぞれ 90分
14	頭頸部腫瘍に伴う摂食嚥下障害	講義（真柄）	準備：これまでに学修してきた関連領域（頭頸部腫瘍の摂食嚥下障害）の知識の整理。 事後：学修内容のまとめ。	それぞれ 90分
15	これからの摂食嚥下リハビリテーションの向かうべき方向	講義（井上）	準備：これまでに学修してきた関連領域の知識の整理ならびに臨床への展開に向けた課題を考える。 事後：学修内容のまとめ。	それぞれ 90分

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80		20					100
評価 指標	取り込む力・知識	80		20					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	関連領域のトピックス 聴講学生に合ったテーマのトピックス紹介と討議	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の 知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床や 修士研究への展開を考え、レポート にまとめる。	90分 90分
2	口腔・咽頭・喉頭の構造と機能 口腔・咽頭・喉頭の解剖と生理 ～一步進で…～	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の 知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床や 修士研究への展開を考え、レポート にまとめる。	90分 90分
3	咀嚼運動 咀嚼運動の仕組み、神経性制御 最近の知見	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の 知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床や 修士研究への展開を考え、レポート にまとめる。	90分 90分
4	味を感じる仕組み・味覚障害 味覚受容機構、味覚の意義、おいしさとは、味覚 障害の種類 臨床的トピックス	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の 知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床や 修士研究への展開を考え、レポート にまとめる。	90分 90分
5	嚥下運動 嚥下運動の仕組み、神経性制御 最近の知見	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の 知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床や 修士研究への展開を考え、レポート にまとめる。	90分 90分
6	歯・口腔・顎・顔面の診察法 歯・口腔・顔面の症状の表現方法 歯・口腔・顔面の診察法	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の 知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床や 修士研究への展開を考え、レポート にまとめる。	90分 90分
7	唾液の働きと分泌機構 唾液の生理的機能、分泌機構 唾液を使って行う各種検査 臨床的トピックス	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の 知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床や 修士研究への展開を考え、レポート にまとめる。	90分 90分
8	関連領域の論文抄読、論文の書き方 聴講学生が選択した興味ある論文の抄読 論文の書き方の基本	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の 知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床や 修士研究への展開を考え、レポート にまとめる。	90分 90分

【科目名】 摂食・嚥下訓練・治療法（基礎）		【担当教員】 倉智 雅子、松村 博雄、木戸 寿明
【授業区分】 専門科目	【授業コード】 dbms106	(メールアドレス)
【開講時期】 後期	【選択必修】 選択	倉智：mkurachi@iuhw.ac.jp
【単位数】 1	【コマ数】 8	(オフィスアワー) 倉智：メールにて随時
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 頭頸部領域の解剖について、学部レベルの基礎知識を有していること。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 学修に取り組む姿勢も評価の対象となるため、積極的な質問や意見交換が望まれる。		
【講義概要】 (目的) 「学位授与の方針と当該授業科目の関連」：専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。 (方法) 主として、配付資料とトピックに合わせた動画を使用して講義を行います。 演習については授業の中で正しい解釈について解説します。 「試験・レポートのフィードバック方法」倉智：レポートについては、コメントを付して返却します。 松村：理解度確認テストにコメントを付して返却。 木戸：ディスカッション・ディベートの中で、現状の理解度の把握と必要な助言を行います。		
【一般教育目標(GIO)】 摂食嚥下障害の臨床の土台となる知識と技能を習得するために、ヒトの嚥弓（咽頭弓）性器官の変遷、転用、痕跡など形態形成の特徴をとらえて、摂食・嚥下に関する形態と機能を理解する。また、口腔ケアに必要な知識と技術を修得する。		
【行動目標(SBO)】 口腔の診察：口腔内の観察の仕方を説明でき、歯科領域特有の専門用語を用いた表現ができる。さらに一般的な歯口清掃の仕方のみならず、高齢者障害のための口腔ケア実習を通し、義歯の取り扱い、口腔内清拭、舌の清掃、口腔乾燥のケア等について実施できる・演習を通し、顎顔面領域のレントゲン画像の見方や、診療報酬・介護報酬のしくみが概説でき、医療事故等の事例分析ができる。・嚥下に関与する感覚系・運動系の解剖生理および嚥下に関与する延髄や上位中枢の役割がわかる・嚥下障害症例のビデオ画像解析ができる（演習）		
【教科書・リザーブドブック】 倉智：プリントを配付予定 松村：プリントを配付予定 木戸：プリントを配付予定		
【参考書】 倉智：才藤栄一，植田耕一郎監修：摂食嚥下リハビリテーション 第3版．医歯薬出版， 2016． ￥7,600		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 3人の担当者の評価を倉智50％（うち、レポート40％、学修に取り組む姿勢10％）、松村25％、木戸25％の割合で合わせて総合的に評価を行う。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				90				10	100
評価 指標	取り込む力・知識			70					70
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	嚥下の神経機構	講義(倉智)	予習：これまでに学習した嚥下器官の解剖(特に神経系)と健常嚥下の整理を復習しておく 復習：講義ノート、講義資料の確認	220
2	嚥下反射の惹起機構：感覚受容器の特性	講義(倉智)	予習：これまでに学習した嚥下器官のうち、特に口腔と咽喉頭の解剖を復習しておく 復習：講義ノート、講義資料の確認	220
3	嚥下の異常所見とその解釈	講義・演習(倉智)	予習：嚥下造影で観察できる健常嚥下の動態および異常所見の確認 復習：演習を通して気付いたことや疑問点をディスカッションで発言できるようまとめておく。	220
4	嚥下障害症例の嚥下造影画像解析とディスカッション	講義・討議(倉智)	予習：討議参加への準備 復習：講義ノート、講義資料の確認	220
5	鰓弓性(咽頭弓)器官 咀嚼、哺乳、嚥下、発声の発生学	講義(松村)	準備学習：初期発生について	45
6	脳神経Ⅴ、Ⅶ、Ⅸ、Ⅹ 脳神経と咀嚼、嚥下、発生のかかわり	講義(松村)	準備学習：脳神経の解剖学	45
7	全身状態の評価 バイタルサイン、摂食嚥下に関わる身体機能評価	講義(木戸)	準備学習：臨床検査学の復習	220
8	口腔の診察 口腔内観察法と歯科専門用語、口腔ケアの理論と実際	講義(木戸)	準備学習：臨床歯科医学の復習	220

【科目名】高次脳機能障害学総論Ⅰ（基礎）		【担当教員】伊林 克彦
【授業区分】専門科目	【授業コード】dBmhs109	(メールアドレス) ibayashi@nur05.onmicrosoft.com (オフィスアワー) 水曜日午後
【開講時期】前期	【選択必修】必修	
【単位数】1	【コマ数】8	
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) この科目を受講するには基礎的な神経解剖学を修得していることが前提です。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) この科目では大脳の器質的な損傷に伴う巣症状を理解していることが求められます。		
【講義概要】 (目的) 高次脳機能障害を幅広く理解する。 中枢神経系の理解を深める。 【学位授与の方針と当該授業科目の関連】 専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。 (方法) 授業やディスカッションにおいて積極的な参加を望む。 【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 試験や授業の後で個々にフィードバックする。		
【一般教育目標(GIO)】 ・ 中枢神経系の発生、形態学ならびにヒトの脳の特徴（特殊化）を研究する。 ・ 高次脳機能について幅広く概観する。 【行動目標(SBO)】 ・ 高次脳機能が日常生活にどのように関わっているかを学修する。		
【教科書・リザーブドブック】 資料を配付します。		
【参考書】 脳解剖学 萬年甫 原一之 南江堂 9,800円 高次脳機能障害 藤田郁代 医学書院 4,725円		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 レポート60%、口頭試問40%。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		40		60					100
評価 指標	取り込む力・知識	40		60					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	高次脳機能障害とは 高次脳機能の基本概念	講義	中枢神経系に関する解剖学および神 経学の書籍を読む。	220
2	聴覚認知とは 聴覚認知の障害	講義	聴覚と脳の関係について関連書を読 んで予習する。	220
3	視覚認知とは 視覚認知の障害	講義	視覚と脳の関係について関連書を読 んで予習する。	220
4	視空間認知とは 視空間認知の障害	講義	視空間知覚と脳について関連書を読 んで予習する。	220
5 6	5 高次脳機能障害の臨床像 ①各症状の出現頻度 ②各症状と左右脳半球の関係	講義	脳血管障害、変性疾患、外傷、脳腫 瘍などの疾患に対する文献や書籍を 通して予習する。	220
7	触覚認知とは 触覚認知の障害	講義	触覚及び体性感覚と脳について関連 書を読んで予習する。	220
8	行為機能とは 行為の障害	講義	行為・遂行機能と脳について 関連書を読んで予習する。	220

【科目名】 高次脳機能障害学総論Ⅱ（応用）		【担当教員】 宮岡 里美
【授業区分】 専門科目	【授業コード】 dBmhs110	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 8	(オフィスアワー) 月～金12:40-13:20, 他研究室在室時
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ※本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療機関及び地域保健・健康増進事業等で言語・高次脳機能障害者へのリハビリテーションに従事してきた経験から、脳の構造及び機能と心のはたらきの関係について講じていきます。 ※本科目は言語聴覚士、公認心理師等を目指す者には重要な科目となります。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) この科目では20分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。		
【講義概要】 (目的) ①脳機能と心のはたらき（脳と心）の関係、②脳のダメージが人の心や言動にどのような変化をもたらすのかを学ぶ。そして、③脳神経系疾患患者への適切な支援法について神経心理学的視点から考え、実践できることを目的とします。 当該科目と学位授与方針との関連性；専門領域に関する多様な課題を分析し、自ら解決する能力を培う。 (方法) Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。 毎回、資料の配布を行い、参考文献を紹介する。 「脳の構造と機能」についての総論及び各論は「解剖学」「生理学」及び「神経生理学」等で既に学習しているので、本講義では、各心理機能に関連している中枢をその都度説明していくにとどめる。 可能な限り、症例を通して実際に学べるように視聴覚教材や臨床検査を使用して、講義を進めていく。		
【一般教育目標(GIO)】 ①脳の神経系の構造や機能について基礎的な説明ができる。 ②知覚・認知、記憶、学習、動機づけ、感情、思考と言語などの神経学的・生理学的作用機序を説明できる。 ③脳神経系の疾患とその病態を神経心理学的に評価できる。 ④心理学的立場からの適切な支援、リハビリテーションの実施法を理解できる。 【行動目標(SBO)】 高次脳機能障害と脳機能との関連性が理解でき、適切に支援することができる。 コミュニケーション能力の機序を脳機能から理解でき、その機能障害が生活・社会活動全般に及ぼす影響も説明できる。 症例に即した神経心理学的検査を正しく実施でき、その結果を適切に評価できる。		
【教科書・リザーブドブック】 特に指定せず。毎回、関連する資料を配布する。 尚、「（神経）解剖学」「（神経）生理学」の教科書で、当講義内容と関連する項目についてはその都度参照し、予習や復習に活用することが望ましい。		
【参考書】 田川皓一、池田学(編)「神経心理学への誘い 高次脳機能障害の評価」西村書店(2020/9/2) ¥7,480(税込) 山鳥重(著)「神経心理学入門」医学書院(1985/1/1) ¥7,040 Newton 別冊ムック「脳とは何か」(株)ニュートンプレス(2019/12/5) ¥1,980(税込)		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。 本学GPA評価基準に従う。 試験結果・授業中に実施した心理テスト等のデータは、支障のない限り返却します。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				70				30	100
評価指標	取り込む力・知識			30					30
	思考・推論・創造の力			40					40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							30	30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	失認：感覚知覚機能と高次脳機能、支援・対応法 視覚失認・聴覚失認・触覚失認・身体失認 各失認のスクリーニング検査	講義 検査の演習	復習（要点の整理）	180
2	注意障害：注意機能と高次脳機能、支援・対応法 持続的注意・選択的注意・転導性注意 ・注意の配分	講義 検査の演習	復習（要点の整理）	180
3	失行：行為と高次脳機能、支援・対応法 運動失行・観念失行・構成失行・着衣失行等 遂行機能障害と高次脳機能 観察のポイントとリハビリテーション	講義 検査の演習	復習（要点の整理）	180
4	失語：言語機能と高次脳機能、支援・対応法 失語症の分類 スクリーニングテスト リハビリテーション 日常生活での配慮	講義 検査の演習	復習（要点の整理）	180
5	記憶：記憶障害と高次脳機能、支援・対応法 記憶障害の分類 スクリーニングテスト リハビリテーション 日常生活での配慮	講義 検査の演習	復習（要点の整理）	180
6	感情：情動障害と高次脳機能、支援・対応法 社会的行動障害 依存性・退行、欲求コントロール低下、 感情コントロール低下、対人技能拙劣、 固執性、意欲・発動性の低下、抑うつ等	講義	復習（要点の整理）	180
7	発達障害：発達期の課題 生活/修学/就労支援 家族支援	講義	復習（要点の整理）	180
8	認知症：高齢期の課題 生活支援 家族支援	講義 検査の演習	復習（要点の整理）	180

【科目名】		高次脳機能障害評価学Ⅱ（画像）		【担当教員】	伊林 克彦
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	Bhs203	(メールアドレス) ibayashi@nur05.onmicrosoft.com (オフィスアワー) 水曜日午後	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修		
【単位数】	1	【コマ数】	8		
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 個人情報を取り扱う場合があるので、注意すること。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 高次脳機能障害の中でも大脳の画像と神経学的症状が中心となるため、学部の実習前に学んだ画像診断について教科書等で予習しておくことが求められる。					
【講義概要】 (目的) 高次脳機能（画像検査・脳波等）について実際に経験した症例の問題点を出してみる。 【学位授与の方針と当該授業科目の関連】 専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。 (方法) 学部以上に画像診断に対する知識が求められ、病巣の同定・症状の分析さらに訓練内容や予後の判断に不可欠となっているため、臨床でも数多くの画像に接して欲しい。 【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 質問などに対し、メール又は口頭で随時対応を行う。					
【一般教育目標(GIO)】 ・画像から必要な所見を読み取れるように、実例を用いて画像診断を学ぶ。					
【行動目標(SBO)】 ・神経心理学的症状について専門的に説明できる。 ・画像から失語症を読み取る。 ・画像から失行症を読み取る。 ・画像から失認症を読み取る。					
【教科書・リザーブドブック】 資料を配付します。					
【参考書】 田川皓一 峰松一夫 監訳 「神経心理学の局在診断」 西村書店 9,500円					
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 レポート60%、口頭試問40%					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				60				40	100
評価指標	取り込む力・知識			60				40	100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	失語症と画像診断 失語症例の画像	講義	古典分類を主とした失語症の分類と症状について予習する	220
2	同上	講義	古典的分類以外の失語症について予習する	220
3	高次脳機能障害患者の画像診断（症例報告）画像 case report 1	講義	巣症状を中心とする患者のCT及びMRI画像を見ておく	220
4	失行症と画像診断 失行症の画像	講義	失行症についての神経学的及び神経心理学的知識を深めておく	220
5	失認症と画像診断 失認症の画像	講義	失認症についての神経学的及び神経心理学的知識を深めておく	220
6	認知症を中心とした画像診断（症例報告） 画像 case report 2	講義	認知症の概念や診断、評価法などについて予習する	220
7	外科的手術による認知症の治療法 Treatable dementia（外科的）	講義	認知症の外科的治療法について予め調べておく	220
8	薬物による認知症の治療法 Treatable dementia（内科的）	講義	薬物による認知症の治療について我が国で用いている薬について調べておく	220

【科目名】		発達障害		【担当教員】	道関 京子
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	dbhs 116	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	doseki@nur.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 土曜・日曜12～13時、水曜17～22時	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
発達および発達障害に関する基礎的概説を習得しておいてほしい。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
最初に課題を振り分ける。自分の課題をまとめ発表する準備に関連づけながら講義に参加すること。					
【講義概要】					
(目的)					
・発達障害を真に理解するために、人間は思考や概念をどのように獲得し、互いが互いの道具として高次化(発達)してきたかを理解する。					
・発達障害における各課題について議論できる。					
・当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。					
(方法)					
・人間研究学の第一の問題である随意性について、施行と言語を代表に複雑な発達過程を解明していき、さらに思考と言語をつなぐ内言の構造や体験(情動・身体・運動)の役割をVygotsky心理学を中心に解説する。					
・広く人間の随意性を理解したうえで、具体的な支援やリハビリテーション・研究を考えていく。					
・課題に対するフィードバックの方法は、発表の場で解説を行うが、内容により拡大した解説時間をとる。					
【一般教育目標(GIO)】					
発達障害を理解するために、人間の概念と言語の発達における複雑な階層から考察できるようになる。					
【行動目標(SBO)】					
・概念発達における心理学・神経心理学の展開と課題を概説できる。					
・思考と言語の発達と関係を、系統発生・個体発生および脳神経学、心理学的観点から説明できる。					
・内言の成立と構造や機能について説明できる。					
・発達障害の思考段階を考察できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
教科書；ヴィゴツキーLS、思考と言語 新訳版、柴田義松訳、新読書社、2001年、¥4,180（税込）					
【参考書】					
・ヴィゴツキー、新児童心理学講義、柴田義松他訳、新読書社、2014年、¥2,860（税込）					
・Vygotsky’ s Educaional Theory in Cultural Context. Alex Kozulin et al.(Eds), Cambridg University Press,2003.					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規定に従う。					
成果（課題）発表を課する。成果発表50%、実技（討議力など）50%の割合で成績評価する。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			50		50				100
評価指標	取り込む力・知識		25		25				50
	思考・推論・創造の力		25		25				50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	Vygotsky心理学の科学性 教科書「序、1章」を中心に講義 問題の捉え方（発達とは何か）と研究方法論（単位の研究）	講義・討議	教科書序と1章と資料を復習し Vygotsky心理学の基盤を確実に理解する。	220分
2	・ピアジェの代表される成熟に依存する心理学 やシュテルンに代表される人間特殊性に帰属する心理学の問題点 ・人間科学としての神経心理学とは何か	講義・討議	・教科書2章3章と資料を復習する。 ・担当課題の準備を開始する。	220分
3	思考と言語の発生的根源と脳組織化 ・系統発生・個体発生・脳研究との関連 ・発達障害観察にいかに関与するか	講義・討議	・教科書4章と資料を復習する。 ・担当課題をまとめる。	220分
4	概念発達研究 ・意味(概念と言語)発達の研究 1 ・高次脳機能それぞれの共通単位の研究思考と言語の共通単位(意味)の研究 ・集合段階から複合段階へ	講義・討議	・教科書5章(前半)と資料を復習する。 ・担当課題の抄録を作成する。	220分
5	概念発達研究 ・意味(概念と言語)発達の研究 2 ・擬概念段階	講義・討議	・教科書5章(後半)と資料を復習する。 ・担当課題の発表原稿を作成する。	240分
6	概念発達研究 ・意味(概念と言語)発達の研究 3 ・真の概念の獲得	講義・討議	・教科書5章(後半)と資料を復習する。 ・担当課題の発表原稿を作成する。	240分
7	概念発達と内言の臨床 ・概念構造化障害（発達障害・超皮質性感覚障害） ・概念接近障害（失名辞失語） ・内言障害（発達障害、超皮質性運動失語）	講義・討議	教科書7章と資料を復習し、リハビリ臨床をまとめる。	220分
8	担当課題の発表と討議	講義・討議	発表時の質問や指摘、コメントを調べ解決する。	220分

【科目名】失語・失読・失書		【担当教員】道関 京子	
【授業区分】専門科目	【授業コード】dbmhs 117	(メールアドレス)	
【開講時期】後期	【選択必修】選択	doseki@nur.ac.jp	
【単位数】1	【コマ数】8	(オフィスアワー) 土曜・日曜12～13時、火曜17～19時	
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) (受講のルールに関わる情報・予備知識)			
【講義概要】 (目的) ・高次脳機能障害の代表として失語症・失読症・失書症を構造的に理解する。 ・流暢・非流暢判断の土台である発話文とは何かを科学的に理解し、リハビリテーションに活用する力を身につける。 ・当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。 (方法) ・失語・失読・失書の問題を構文論から考えて展開する。 ・講義ごとに症例検討し高次脳機能へのリハビリテーションの臨床研究も共に考えていく。 ・課題やレポート等に対するフィードバックの方法は、質問や意見およびレポート課題に対して解説し、時間外にも延長し十分時間をとる。			
【一般教育目標 (GIO)】 ・失語の構造について知るために、構文（統語）の観察が言語リハビリテーションの土台となることを理解する。			
【行動目標 (SBO)】 ・失語症の各症候群の鑑別ができる。 ・失語症各タイプの統語構造の問題の差について説明できる。 ・失語症のリハビリテーションの基礎を説明できる。			
【教科書・リザーブドブック】 ・教科書；渡辺実、国語文法論、笠間書院、1997年、¥1,760（税込） ・適時、資料を配布する。			
【参考書】 ・Luria AR、神経心理学の基礎-脳のはたらき、鹿島晴雄訳、創造出版、2019年、¥8,800（税込） ・道関京子、新版 失語症のリハビリテーション 全体構造法、基礎編・応用編、医歯薬出版、2016年、¥4,180・¥4,400(税込)			
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規定に従う。 課題発表50%、レポート50%の割合で成績評価する。			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				50	50				100
評価指標	取り込む力・知識			25	25				50
	思考・推論・創造の力			25	25				50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	- 失語症研究の課題と問題点 - 失語症のタイプ分類の意味と目的 タイプ診断、流暢/非流暢分類・古典分類ほか - 分類の基本である発話とは何か	講義・討議	失語分類とその神経学的領域との関連についてか復習する。	220分
2	- 発話文の構文 - 構文とは語が文中で果たす役割であり、語の文中機能から失語症の各タイプの問題を理解する	講義・討議	教科書(p3-18)と資料を復習する。	220分
3	- 統叙・陳述の機能 - 叙述(命題・情報)と陳述(モダリティ)の理解とその障害	講義・討議	教科書(p19-55)と資料を復習する。	220分
4	- 連用・連体の機能 - 日本語格関係の理解とその障害(失文法)	講義・討議	教科書(p56-89)と資料を復習する。	220分
5	- 誘導の機能 - 陳述副詞などの理解とその障害(TCM失語)	講義・討議	教科書(p129-146)と資料を復習する。	220分
6	構文論を生かした失語症リハビリテーションを考える1 非流暢失語に対して述部および陳述の重視	講義・討議	失語症のリハ応用編(p34-49)と資料を復習する。	220分
7	構文論を活用した失語症リハビリテーションを考える2 求心性運動失語やウエルニッケ聴覚-記憶型失語の把持力改善に対して構文論の活用	講義・討議	失語症のリハ応用編(p49-54)と資料を復習する。	220分
8	構文論を活用した失語症リハビリテーション3 健忘失語に対する陳述の活用	講義・討議	失語症のリハ応用編(p81-90)と資料を復習する。	220分

【科目名】運動機能科学総論		【担当教員】高橋 洋
【授業区分】専門科目	【授業コード】dbMhs118	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】必修	hiroshit@nur.ac.jp
【単位数】1	【コマ数】8	(オフィスアワー) 来校時に随時
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 運動機能科学コースの学生は必修科目 (受講のルールに関わる情報・予備知識) サテライトに来れる日時を打ち合わせて日取りを決めましょう。		
【講義概要】 (目的) 理学療法及び関連分野の運動器等に対するアプローチを紹介する。 (方法) スライドによる講義、実技		
【一般教育目標(GIO)】 関連分野からの情報を知り仕事・学業のヒントとする。 【行動目標(SBO)】 研究分野との関連性を考察できる。		
【教科書・リザーブドブック】 プリントを配布する。		
【参考書】 講義内容の欄参照。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) レポート		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価 指標	取り込む力・知識			100					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション 姿勢コントロール (Jane Johnsonn著 武田功 弓岡光徳監訳「姿勢コントロール」	講義	解剖、運動学の復習	220分
2	筋性疼痛症候 小林紘二 緒「筋性疼痛症候の臨 床観察(上巻)」	講義	解剖の復習	220分
3	殿筋からのアプローチ John Gibbons著 木場克 己監訳「強める!殿筋」	講義	解剖の復習	220分
4	同上	同上	同上	220分
5	変形性関節症 井原秀俊、加藤浩、木藤伸宏編集 「多関節運動連鎖から見た変形性関節症の保存療 法」	講義	運動学の復習	220分
6	体幹と骨盤評価 鈴木俊明監修「体幹と骨盤の評 価と運動療法」	講義	解剖の復習	220分
7	同上	同上	同上	220分
8	東洋医学的アプローチ 向野義人、松本実由季、 山下なぎさ 著「M-Test 経絡と動きでつかむ症候 へのアプローチ」 まとめ	講義	解剖の復習	220分

【科目名】心の健康科学総論(心の健康教育に関する理論と実践)		【担当教員】宮岡 里美
【授業区分】専門科目	【授業コード】dbmHs 131	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】必修	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】8	(オフィスアワー) 平日12:40-13:30, 他研究室在室時
【注意事項】		
(受講者に関わる情報・履修条件)		
※本科目は「公認心理師」の受験資格を取得する上での指定科目で、「心の健康教育に関する理論と実践」について学びます。「心の健康」は、保健医療、福祉、教育、、産業・労働、そして司法・犯罪の全ての領域において重要な課題です。その他、(心理学専門領域以外の)全てのコースに所属する院生も受講可能です。職場や家庭での日常生活において、良好な人間関係の構築は自身の心と身体の健康、そして生涯の幸福に繋がります。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識)		
欠席する場合は事前連絡が望ましい。その場合は振替講義を検討します。 主体的/積極的に授業へ参加する態度で受講していただきたい。関心あるテーマは自身で情報検索/収集し、問題提起し、意見交換/情報共有していく姿勢を望みます。		
【講義概要】		
(目的)		
多様な価値観、高度に複雑化した競争社会の中で、緩むことのない心の緊張が ‘心の病’を生み出し、さまざまな疾患を発症させています。本科目では、ストレスのメカニズムとその対処法(ストレス・マネジメント)について、基本的な知識を講じていきます。将来、「心の健康」に関する知識の普及をも図ることができるよう、その支援/教育法にも触れていきます。 当該科目と学位授与方針との関連性;「専門領域に関する多様な課題を発見・分析し、自ら解決する能力を培う。」		
(方法)		
Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。 毎回、関連資料を配布し、参考文献を紹介していきます。 レポートや授業中に実施した心理テスト等のデータは、コメントを付して返却します。		
【一般教育目標(GIO)】		
「健康とは何か?」を国際的定義から説明できる。 ストレスが脳/身体/心へ及ぼす影響、そして疾患との関係を科学的根拠に基づいて説明できる。		
【行動目標(SBO)】		
‘いじめ‘や自殺は現代の大きな社会問題です。その根底に潜むストレスを正しく理解し、適切な心の支援へと繋ぐことができます。これを行動目標とします。 心の健康の維持増進のために、あるいはそれが損なわれたケースに対して、適切な心理学的支援ができる。 ライフサイクルにおける各年代、社会的役割等におけるストレスを知り、適切なマネジメントあるいは支援ができる。		
【教科書・リザーブドブック】		
特に指定せず、必要な資料は配布する。		
【参考書】		
ラザルス&フォークマン著・本明寛他訳/ストレスの心理学/実務教育出版/1991年/5,872円 厚生労働省「健康日本21(第二次)」内、「こころの健康」を参照のこと。 Newton 別冊ムック「脳と心: 脳の最新科学,そして心との関係」(株)ニュートンプレス(2010/11/15) ¥2,415(税込)		
【評価に関わる情報】		
(評価の基準・方法)		
レポート80%、授業への参加態度20%の割合で評価する。出席点は評価に含めない。 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				80				20	100
評価指標	取り込む力・知識			80				20	100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	健康心理学とは ストレスとは？□ ・「健康」の定義 ・演習：精神健康調査票（GHQ 28） ・ストレスとストレス反応	講義	WHO：QOLから「心の健康」を考える	180分
2	ストレスに対する心理的反応 ・不安 ・演習：顕在性不安尺度(MAS) ・怒りと攻撃性 ・アパシーと抑うつ感	講義	顕在性不安尺度(MAS)の結果処理と考察	180分
3	ストレスに対する生理的反応 ストレスによる身体への影響 ・闘争-逃走反応：生理的メカニズム ・汎適応症候群 ・タイプA行動とその修正支援	講義	タイプA行動チェック実施と結果考察	180分
4	PTSD ・ PTSDの定義 ・演習：PTSDチェック ・ PTSDの発症要因 ・発症メカニズム ・ 自然災害とPTSD ・心理学的支援法	講義	PTSDチェックリストから、その発症要因を理解する。	180分
5	ストレスによる健康への影響 ストレス関連疾患 ・パニック障害 ・うつ ・演習：BDI／SDS ・依存症（薬物、アルコール等）	講義	20～30代のワークライフバランスをストレス関連疾患から検討する。	180分
6	ストレス理論 ストレス耐性 ・精神分析理論 ・行動理論 ・認知理論 ・ハーディネス ・楽観主義 ・意味を見出す	講義	各学派の考え方から身近なストレス事例を考察する。 心の支援の実践を試みる	180分
7	ストレスコーピング 自殺予防 ・行動療法・運動療法・認知行動療 ・自己コントロール／心理的サポート ・リスク要因と適切な予防法	講義	各自の日常生活におけるコーピング法を考案する。	180分
8	ライフサイクルとストレス 「健康日本21」にみる「心の健康づくり」□家庭/学校/職場でのストレス ・児童虐待/いじめ/高齢者虐待を考える	講義	いじめの原因・要因を多角的に考察する。以上から、「心の健康づくり」を提言する。	180分

【科目名】 高齢期とリハビリテーション心理学(福祉分野に関する理論と支援の展開)		【担当教員】 宮岡 里美	
【授業区分】 専門科目	【授業コード】 dbmHs 209	(メールアドレス)	
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】 1	【コマ数】 8	(オフィスアワー) 平日12:40-13:30, 他研究室在室時	
【注意事項】			
(受講者に関わる情報・履修条件)			
※本科目は「公認心理師」の受験資格を取得する上での指定科目で、「福祉分野に関する理論と支援の展開」について学びます。 他、心理学の専門領域以外の大学院全ての院生も受講可能です。「高齢期の課題」は日本社会が抱える喫緊の課題の一つであり、特に保健・医療及び福祉領域で重要な課題です。			
(受講のルールに関わる情報・予備知識)			
欠席する場合は事前連絡が望ましい。その場合は振替講義を検討します。 積極的態度で受講していただきたいです。関心あるテーマは自身で情報収集し、問題提起し、意見交換していく姿勢を望みます。 当該科目と学位授与方針との関連性；専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。			
【講義概要】			
(目的)			
高齢期の心理社会的課題と必要な支援について講じていきます。高齢期の①認知機能及び感情・社会性の変化、②自己と他者の関係性の変化について、科学的知見に基づき説明いたします。その上で、超高齢社会の日本の現状や問題について考えていきます。 高齢者の現状や諸問題は現代社会において非常に重要な課題です。幸福な一生を送るために私たちはどのような支援をすべきなのかを各人の観点から熟考することを目的とします。			
(方法)			
Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。 毎回、講義スライド資料を配布します。関連資料がある場合にはそれも配布します。 レポートや授業中に実施した心理テスト等のデータは、コメントを付して返却します。			
【一般教育目標(GIO)】			
1. 高齢期の身体的変化の特徴を知る。 2. 高齢期における認知機能及び感情・社会性の変化、自己と他者のあり方の心理的变化の様相を知る。 3. 高齢期を「サクセスフル・エイジング」の観点からとらえていく。 4. 高齢期の危機及び障害について理解し、適切な支援ができる。			
【行動目標(SBO)】			
1. 「サクセスフル・エイジング」を心身両面から支援できる。 2. 「補償を伴う選択的最適化理論」「死の受容」等の観点から、高齢者の心のケアができる。 3. 心理的危機の原因を内的要因(生物・心理的要因)と外的要因(社会・文化的要因)から考察できる。 4. 心理的危機に対して、適切なこころの支援ができる。			
【教科書・リザーブドブック】			
特に指定せず、必要な資料は配布する。			
【参考書】			
特に指定せず。高齢者福祉関連制度の「老人福祉法」「介護保険法」「障害者総合支援法」「生活保護法」等は配布する。 中島健一（著、編）、野島/繁樹(監)／第17巻 福祉心理学（公認心理師の基礎と実践）／遠見書房（2018/8/19）／¥2,860 川畑・大島他（編・著）／福祉心理学(公認心理師の基本を学ぶテキスト 17)／ミネルヴァ書房（2020/5/25）／ ¥2,420			
【評価に関わる情報】			
(評価の基準・方法)			
本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 レポート80％、授業への参加態度20％の割合で評価する。出席点は評価に含めない。			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				80				20	100
評価指標	取り込む力・知識			80					80
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	高齢社会の実態 ・平均寿命と健康寿命 ・介護予防☐老人福祉法 ・年齢階級別受療率 ・「寝たきり」予防		高齢社会の実態を理解し、その社会活動への影響を多角的に説明できる。	180分
2	高齢期の身体機能・感覚機能・運動機能の変化 ・機能の低下が日常生活に及ぼす影響・機能低下の予防・高齢者の自動車運転・視・聴・味・嗅・触の各機能低下が、日常生活動作へ及ぼす影響。 ・脱水や食思不振の背景要因		生物学的に加齢が感覚・運動機能へ及ぼすさまざまな影響を知り、適切な対応を提言できる。	180分
3	高齢期の認知機能・知的機能/記憶機能の低下 高齢期のパーソナリティ・高齢期の人間関係/家族関係の変化・結晶性知能と流動性知能 ・社会的離脱・補償を伴う選択的最適化・生活の中での支援（家族関係調整等）		「高齢者」の問題行動の背景に知的機能や人格の変化が潜んでいることを説明できる。	180分
4	喪失体験と心のケア（社会的支援） ・うつ ・回想法 ・独居・孤独 ・ソーシャル・コンボイ		高齢者支援のための各地域での社会的資源を検索し、そのサービスを活用できる。	180分
5	高齢期の精神疾患とその予防 ・認知症とは ・認知症への対応 ・演習：MMSE, HDS-R ・共感的理解		認知症スクリーニングテストを実施でき、その評価に対する適切な対応ができる。	180分
6	高齢者の介護について ・介護者の心理 ・高齢者虐待☐ケア・マネジメント ・地域包括ケアシステム ・高齢者虐待防止法		高齢者虐待の介護者側の要因を知り、その予防のための方策を検討する。	180分
7	「死の受容」 ・キューブラ・ロス モデル ・上記の臨床応用・「二人称の死」の受容 ・自身の死の受容		「キューブラ・ロス モデル」での心理的变化の段階を理解し、受容れることができる。	180分
8	まとめ ・高齢者の社会参加・高齢者の就業支援と経済的自立☐QOL / well-being・サクセスフル・エイジング・年金、医療費の問題・高齢期の再就職、再学習支援		幸福な一生涯を実現するための最終ステージにおいて、私たちはどのような支援をすべきなのかを総括する。	180分

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		55	35					10	100
評価 指標	取り込む力・知識	55	35						90
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	●臨床心理学とはどのようなものか	講義	レポート作成にむけた 問題意識・課題の整理	340
2	●臨床心理学はどう役立つか	講義	レポート作成にむけた 問題意識・課題の整理	340
3	●臨床心理学と公認心理師	講義	レポート作成にむけた 問題意識・課題の整理	340
4	●臨床心理学の成り立ち	講義	レポート作成にむけた 問題意識・課題の整理	340
5	●臨床心理学における研究	講義	レポート作成にむけた 問題意識・課題の整理	340
6	●臨床心理学と生物－心理－社会モデル	講義	レポート作成にむけた 問題意識・課題の整理	340
7	●臨床心理学における支援の前提 「動機づけ面接」を理解する	講義	レポート作成にむけた 問題意識・課題の整理	340
8	●「臨床心理学」まとめ	講義	レポート作成にむけた 問題意識・課題の整理	340

【科目名】生涯発達心理学		【担当教員】西村 信子	
【授業区分】専門科目	【授業コード】s140	(メールアドレス)	
【開講時期】前期	【選択必修】選択	nishimura@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】1	【コマ数】8	(オフィスアワー) 月・火・水曜日12時40分～15時00分	
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) これまで学部や修士課程で履修した心理学関連科目を復習しておくこと。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 遅刻、欠席、早退は学則に従う。			
【講義概要】 (目的) 近年、年齢を積み重ねることの重要性が、多くの領域で科学的に明らかにされている。本講義では、①誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達、②自己と他者の関係の在り方と心理的発達、③認知機能の発達及び社会性の発達、④発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方、⑤高齢者の心理などについて、心理学の知見に基づいた発達の過程を学ぶことを目的とする。 当該科目と学位授与方針との関連性：専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自らの解決する能力を培う。 (方法) 実践内容に関する小テスト等課題のフィードバックは、授業内で行う。また、学期末レポートのフィードバックは、個別に対応する。			
【一般教育目標 (GIO)】 ・各発達段階の身体的発達特徴を知る。 ・各発達段階における認知機能及び感情・社会性の発達のプロセス、自己と他者のあり方の心理社会的発達の様相を知る。 ・各発達段階における発達の危機及び障害について理解し、適切な心理的支援ができる。			
【行動目標 (SBO)】 ・各発達段階で発生しやすい心理的危機を知る。 ・その原因を内的要因(生物・心理的要因)と外的要因(社会・文化的要因)から考察できる。 ・各発達段階で生じやすい問題に対し適切な心理的ケアができる。			
【教科書・リザーブドブック】 教科書等は特になし。 配布資料あり。			
【参考書】 本郷一夫編（2018）発達心理学公認心理師の基礎と実践第12巻．遠見書房． 向田久美子（2017）発達心理学概論．NHK出版． 秦野悦子・近藤清美編（2020）公認心理師カリキュラム準拠 発達心理学．医歯薬出版．			
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 レポート（学期末課題含）60％、小テスト20％、実技20％の割合で評価する。			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			20	60		20			100
評価指標	取り込む力・知識		10	30					40
	思考・推論・創造の力			30					30
	コラボレーションとリーダーシップ					10			10
	発表力					10			10
	学修に取り組む姿勢		10						10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	生涯発達心理学の基礎 生涯発達とは？/発達の規定要因/発達理論	講義	次講義の予習をする。	240
2	乳児期：心理社会的発達特徴と心理ケア	演習	前講義の復習と次講義の予習をする。	240
3	幼児期：心理社会的発達特徴と心理ケア	演習	前講義の復習と次講義の予習をする。	240
4	児童期：心理社会的発達特徴と心理ケア	演習	前講義の復習と次講義の予習をする。	240
5	青年期：心理社会的発達特徴と心理ケア	演習	前講義の復習と次講義の予習をする。	240
6	成人前期：心理社会的発達特徴と心理ケア	演習	前講義の復習と次講義の予習をする。	240
7	成人中期：心理社会的発達特徴と心理ケア	演習	前講義の復習と次講義の予習をする。	240
8	老年期：心理社会的発達特徴と心理ケア	演習	これまでの講義を復習する	240

【科目名】		学習心理学		【担当教員】	宮岡 里美
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	s141	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 月～金12:40-13:20, 他研究室在室時	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
※本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。保健・医療機関で言語・高次脳機能障害や精神機能障害等のリハビリテーションに従事してきた経験から、人の行動が学習により変化する過程及び言語習得の機序について講じます。 ※本科目は言語聴覚士及び公認心理師国家試験出題基準における指定科目です。また、認定心理士資格取得のための必須科目です。人は生をうけて生涯を終えるまでさまざまな行動を学習していきます。学習心理学では、これら行動と認知の基本的なメカニズムを概説していきます。将来臨床現場で活躍することを希望する場合には受講していただきたいと思います。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
この科目では20分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。 他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。					
【講義概要】					
(目的)					
①人の行動が変化する過程、及び②言語の習得における機序を学びます。 ヒトは、誕生から死に至るまでさまざま行動を学習し、臨機応変に変化させていきます。本講義を通して、学習心理学の基本的理論と知見について学び、学習理論を心の支援に応用する考え方を理解していきます。また、ヒトは言語で他者とのコミュニケーションを交わしています。この言語習得のメカニズムを脳科学の観点からも学び、言語障害に対する基礎的支援法を実践できることを目的とします。 当該科目と学位授与方針との関連性：「専門領域に関する多様な課題を発見・分析し、自ら解決する能力を培う。」					
(方法)					
Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。 毎回試料の配布を行い、参考文献を紹介する。 資料は全受講生に配付します。欠席した場合には、後日担当者から受け取り、必ず参照しておいて下さい。 試験結果・授業中に実施した心理テスト等のデータは、支障のない限り返却します。 講義後にレポートを課す場合があります。また、心理テストも授業時間内に随時実施していきます。					
【一般教育目標(GIO)】					
学習の基本原理を学び、動物及び人間の行動の基盤には学習のメカニズムが機能していることを理解する。 言語習得の基本プロセスと言語の機能(役割)を理解する。 学習の障害、言語障害の機序を学び、適切な支援ができる。					
【行動目標(SBO)】					
人間の行動は変化することを説明できる。 人間の行動は、ある程度は予測し、コントロールすることも可能であることを説明できる。 学習の原理を日常生活場面や将来の臨床場面で応用していくことができる。 障害に対して適切な支援ができる。 言語聴覚士として必要な本科目関連知識を学修し、理解する。					
【教科書・リザーブドブック】					
グラフィック学習心理学：行動と認知／山内光哉・春木豊(編著)／サイエンス社 /¥2,805(税込)					
【参考書】					
学習の心理(コンパクト新心理学ライブラリ)/実森正子・中島 定彦(著)／サイエンス社 (2019/12) /¥2,530 学習心理学への招待(新心理学ライブラリ)／篠原彰一著 / サイエンス社 /¥ 2,520 メイザーの学習と行動 /ジェームズ E メイザー(著) /二瓶社 (2008/06) / ¥4,200					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。 成績評価は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行規則、大学院GPAに関する規程に従う。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70		30					100
評価 指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	20		30					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢	10							10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	学習とは何か ・学習研究の始まりと方法論 行動主義と認知論 古典的条件づけ ・条件づけの典型例 条件刺激と無条件刺激	講義 一部演習	指定教科書p. 1-14 指定教科書p. 15-24	160分
2	古典的条件づけ ・行動の獲得と消去 汎化と弁別	講義	指定教科書p. 24-35	160分
3	古典的条件づけ ・恐怖の条件づけ 実験神経症 行動療法 古典的条件づけのまとめ	講義	指定教科書p. 36-42 ST国試過去問関連問題	160分
4	オペラント条件づけ ・条件づけの典型例 オペラント条件づけの型	講義	指定教科書p. 43-64 指定教科書p. 149-154	160分
5	オペラント条件づけ ・オペラント条件づけによる行動の獲得と消去	講義	指定教科書p. 64-74	160分
6	オペラント条件づけ ・汎化と弁別 オペラント条件づけのまとめ	講義	指定教科書p. 74-92 ST国試過去問関連問題	160分
7	社会的学習 ・社会的学習とは何か 模倣学習 観察学習	講義	指定教科書p. 125-134 ST国試過去問関連問題	160分
8	社会的学習 ・攻撃行動 罰の効果 いじめの発生	講義	指定教科書p. 134-144 レポート課題「攻撃行動はなぜ発生 するのか？」	160分

9	社会的学習 ・自己効力感（セルフ・エフィカシー） 社会的学習のまとめ	講義 一部演習	指定教科書p. 144-148 自己効力感の測定 ST国試過去問関連問題	160分
10	技能学習 ・学習曲線 結果の知識 練習条件	演習：鏡映描写	指定教科書p. 93-102 レポート課題：技能学習の学習曲線	160分
11	技能学習 ・技能の記憶 技能の転移 技能学習のまとめ	講義	指定教科書p. 102-124 ST国試過去問関連問題	160分
12	言語獲得と概念過程 ・言語の獲得 ・言語と概念形成	講義	指定教科書p. 175-190	160分
13	概念過程と言語獲得 ・言語と思考 ・言語と脳機能	講義	指定教科書p. 184-199 ST国試過去問関連問題	160分
14	言語障害への支援 ・失語症 ・発達障害	講義 ビデオ教材使用	レポート課題「言語障害への支援」	160分
15	問題解決と推理 学習理論の医療・福祉への応用 まとめ	講義	ST国試過去問関連問題	160分

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70		30					100
評価 指標	取り込む力・知識	50							50
	思考・推論・創造の力	20		20					40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢			10					10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	感覚Ⅰ 感覚の種類、感覚の範囲と感度	講義 一部演習	復習・要点の整理	160分
2	感覚Ⅱ 感覚の物理量と心理量 感覚の順応・対比・加重	講義 一部演習	復習・要点の整理	160分
3	知覚・認知Ⅰ 色彩知覚、奥行き知覚、図と地	講義 一部演習	復習・要点の整理	160分
4	知覚・認知Ⅱ 運動の知覚、知覚の恒常性、運動の協応	講義 一部演習	復習・要点の整理 ST国試関連過去問で復習する	160分
5	知覚・認知Ⅲ 認知地図、対人認知、感覚遮断 視知覚・認知の障害とその支援	講義 一部演習	復習・要点の整理	160分
6	知覚・認知Ⅳ 注意、認知の枠組み 注意障害とその支援	講義 一部演習	復習・要点の整理	160分
7	まとめ 国試過去問にみる「感覚・知覚・認知」	講義 一部演習	復習・要点の整理 ST国試関連過去問で復習する	160分
8	記憶Ⅰ 記憶過程、記憶の分類、短期記憶、 ワーキングメモリ	講義 一部演習	復習・要点の整理	160分

9	記憶Ⅱ 長期記憶、顕在記憶・潜在記憶、展望記憶	講義 一部演習	復習・要点の整理	160分
10	記憶Ⅲ 忘却と記憶の変容、ヒューマンエラー 記憶障害とその支援	講義 一部演習	復習・要点の整理	160分
11	まとめ 国試過去問にみる「記憶」	講義 一部演習	復習・要点の整理 ST国試関連過去問で復習する	160分
12	思考Ⅰ 演繹的推論、帰納的推論	講義 一部演習	復習・要点の整理	160分
13	思考Ⅱ 問題解決 思考障害とその支援	講義 一部演習	復習・要点の整理	160分
14	言語 言語使用、言語獲得、言語と思考 言語障害とその支援	講義 一部演習	復習・要点の整理	160分
15	認知の障害とリハビリテーション まとめ 国試過去問にみる「言語と思考」	講義 一部演習	復習・要点の整理 ST国試関連過去問で復習する	160分

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60	30					10	100
評価 指標	取り込む力・知識	40	20						60
	思考・推論・創造の力	20	10						30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	心理測定法とは	講義	心理測定法の概要、意義について理解できる	各 180
3・4	測定の水準(名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比率尺度)	講義、演習	4つの尺度水準の違いを説明できる	各 180
5・6	精神物理学的測定法(1)(刺激閾、弁別閾、主観的等価値、丁度可知差異)	講義、演習	刺激閾、弁別閾、主観的等価値、丁度可知差異の意味を説明できる	各 180
7・8	精神物理学的測定法(2)(調整法、極限法)	講義、演習	調整法、極限法の意味、またその実際を説明できる	各 180
9・10	精神物理学的測定法(3)(恒常法、マグニチュード推定法)	講義、演習	恒常法、マグニチュード推定法の意味、またその実際を説明できる	各 180
11・12	恒常誤差	講義	さまざまな恒常誤差の意味を説明できる	各 180
13・14	妥当性と信頼性	講義	妥当性と信頼性の意味を説明できる	各 180
15	まとめ	講義	これまでの講義、配布資料をもとに学んだ内容を理解できる	各 180

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価 指標	取り込む力・知識			50					50
	思考・推論・創造の力			50					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	医療の歴史と倫理問題の提起	講義	復習：配布プリントで再確認	90 90
2	医療者と患者の関係	講義	予習：前回の講義を踏まえて予習 復習：配布プリントで再確認	90 90
3	医療倫理と原則	講義	予習：前回の講義を踏まえて予習 復習：配布プリントで再確認	90 90
4	健康科学概論	講義	予習：前回の講義を踏まえて予習 復習：配布プリントで再確認	90 90
5	☐ 人間機能・形態学概論	講義	予習：前回の講義を踏まえて予習 復習：配布プリントで再確認	90 90
6	☐ 人間疾病・治療学概論Ⅰ	講義	予習：前回の講義を踏まえて予習 復習：配布プリントで再確認	90 90
7	人間疾病・治療学概論Ⅱ	講義	予習：前回の講義を踏まえて予習 復習：配布プリントで再確認	90 90
8	社会・環境人間健康学概論	講義	予習：前回の講義を踏まえて予習 復習：配布プリントで再確認	90 90

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				60				40	100
評価指標	取り込む力・知識			40					40
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力							20	20
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	人体の構成と細胞、組織	講義	講義内容の復習	220分
2	骨格系と筋系	講義	講義内容の復習	220分
3	神経系	講義	講義内容の復習	220分
4	循環器系	講義	講義内容の復習	220分
5	呼吸器系	講義	講義内容の復習	220分
6	消化器系	講義	講義内容の復習	220分
7	泌尿生殖器系と内分泌系	講義	講義内容の復習	220分
8	発生	講義	講義内容の復習	220分

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80		20					100
評価指標	取り込む力・知識	60		5					65
	思考・推論・創造の力	20		10					30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢			5					5

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	興奮性組織 (神経・筋)	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床への展開を考えレポートにまとめる。	90分 90分
2	体液、体液の循環 (体液、血液、心臓、血液循環、循環調節)	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床への展開を考えレポートにまとめる。	90分 90分
3	呼吸 (呼吸、ガス交換、呼吸の調節)	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床への展開を考えレポートにまとめる。	90分 90分
4	感覚機能	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床への展開を考えレポートにまとめる。	90分 90分
5	運動機能	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床への展開を考えレポートにまとめる。	90分 90分
6	自律機能、脳と行動 (情動、睡眠、学習、言語)	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床への展開を考えレポートにまとめる。	90分 90分
7	消化と吸収	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床への展開を考えレポートにまとめる。	90分 90分
8	口腔生理学 (口腔感覚、顎運動、咀嚼、嚥下、唾液)	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床への展開を考えレポートにまとめる。	90分 90分

【科目名】		病理学		【担当教員】	高橋 圭三
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	s147	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	takahashik@nur.ac.jp、takahashik@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 月曜、木曜の16：50～	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
病理学は基礎医学の学問として全員受講すること。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
・解剖学、生理学の知識を基盤としているため、これらの科目を受講していることが望ましい。 ・言語聴覚士国家試験受験に必要な科目である。 ・専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。					
【講義概要】					
(目的)					
医療では予防、診断、治療、リハビリテーションが重要であるが、病気の原因は診断に不可欠である。この診断に欠かせないのが病理学である。病理学は組織診および細胞診、病理解剖から成り立っている。本講義では、体内の異常を調べ、病気の原因および病気になる機序を研究する学問を学ぶ。特にリハビリテーションの対象となる疾患については踏み込んで学修する。 当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う					
(方法)					
スライドや配布資料、教科書などを用いて講義を行います。試験問題（再試験問題除く）は返却します。					
【一般教育目標(GIO)】					
・疾病の一般的变化を理解できる。 ・病理学的所見から病態を推測することができる。 ・疾患の構造基本単位が、遺伝子、蛋白質、細胞、組織、器官、そして個体の階層にあり、相互に密接な関連のあることを理解する。					
【行動目標(SBO)】					
病因によって退行性・進行性病変、代謝異常、循環障害、免疫・炎症・感染症、腫瘍、先天異常など、違った疾病を発症することを解説する。					
【教科書・リザーブドブック】					
教科書：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 病理学 医学書院 4,968円					
【参考書】					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・成績評価は、レポート100%とする。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			100					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	病理学の概要、病因論	講義	該当箇所の復習 レポート作成	220分
2	退行性病変、進行性病変	講義	該当箇所の復習 レポート作成	220分
3	代謝異常	講義	該当箇所の復習 レポート作成	220分
4	循環障害	講義	該当箇所の復習 レポート作成	220分
5	免疫	講義	該当箇所の復習 レポート作成	220分
6	炎症、感染症	講義	該当箇所の復習 レポート作成	220分
7	腫瘍	講義	該当箇所の復習 レポート作成	220分
8	老化・先天異常・奇形	講義	該当箇所の復習 レポート作成	220分

【科目名】		小児科学		【担当教員】	押木 利英子
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	s 148	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	oshiki@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 月、火、木 11：00 ～ 16：00	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
基本的な正常運動発達について理解している、または興味・関心があることが望ましい。 *この科目は小児医療センター等で臨床経験を積んだ実務家教員が担当します。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
事前に正常運動発達、運動発達障害に関する知識の整理、及び文献を調べておくことが望ましい。受講者の背景に合わせて、レポートの添削を行う。個人の希望や必要に応じて解説する。【課題】毎回（1～7回）授業の最後に簡単な課題を出す。（200字程度）この課題レポートを作成し、メールで押木宛に送信する。【試験】筆記試験は行わない。最終回後に事例検討レポートを課し、これと毎回提出のレポートとの総合点を試験結果とする。					
【講義概要】					
(目的)					
運動発達障害の概念や発生機序を理解するとともに、運動障害児の治療効果検証について理解することを目的にする。また、発達理論や研究法の学習を通して最新の知見を学び、PT、OT、STの視点から小児リハビリテーションあり方について学ぶ。					
(方法)					
専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。 ともに学びましょう！					
【一般教育目標 (GIO)】					
・運動発達障害の機序について理解する。 ・運動発達と知覚・認知・行動発達の関係性について理解する。 ・運動発達障害に対する最新の知見を習得する。					
【行動目標 (SBO)】					
・小児リハビリテーションのフィールドにおいて、運動発達の重要性和具体的な提言が出来る。					
【教科書・リザーブドブック】					
・特になし（講義中に随時紹介する）					
【参考書】					
・特になし（講義中に随時紹介する）					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
・本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 ・毎回の授業後課題50%、事例検討レポート50%の提出状況、内容を評価し、単位授与とする。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価 指標	取り込む力・知識			70					70
	思考・推論・創造の力			30					30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	運動発達とは何かその視点 運動発達の機序について概説する	講義	正常運動発達について理解する	180分
2	運動発達の特徴と原理 “動くこと” “動けること” (発達の原点) の意 味を考える	講義	発達指標について理解する	180分
3	運動発達障害特論 (1) 運動発達と脳の可塑性について ～その可能性と障害～	講義	運動発達の多様性について理解する	180分
4	運動発達障害特論 (2) 運動発達の阻害因子の見方と小児理学療法の治療 体系	講義	事例を通して小児理学療法の治療体 系について理解する。	180分
5	運動発達評価と発達原理 発達検査と評価の方法、 運動学習システムと発達理論	講義	子どものハビリテーションについて 考える。	180分
6	私の臨床研究論と紹介 運動発達障害研究に対する私論と今までやってき た研究の紹介と解説	講義	自分自身の研究の意義を考える	180分
7	臨床活動における連携協働の重要性 小児臨床における連携教育 (I P E) と連携協働 (I P W) の重要性について ～その歴史と現状～	講義	あなたの I P E, I P Wを振り返る	180分
8	事例検討 まとめ	事例検討 (モ ジュールを使用 して) レポート作成	提示された事例について検討する。	180分

【科目名】耳鼻咽喉科学		【担当教員】高橋 圭三	
【授業区分】専門科目	【授業コード】s149	(メールアドレス)	
【開講時期】後期	【選択必修】選択	takahashik@nur.ac.jp、takahashik@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】1	【コマ数】8	(オフィスアワー) 月曜、木曜の16：50～	
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 耳科学、鼻科学、咽頭科学を学び、各病態について理解する。耳科学では、平衡感覚に関連する解剖、生理、めまいや眼振などについても理解を深める。鼻科学や咽頭科学でも、解剖・生理・病態を学ぶ。 この科目を履修するには、聴覚医学を修得していることが望まれます。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・小テストを返却後、解答の解説を行います。 ・試験問題（再試験問題除く）は返却します。 ・専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。 ・言語聴覚士国家試験受験に必要な科目です。			
【講義概要】 (目的) 耳鼻咽喉科学領域（耳科学・鼻科学・口腔科学・咽喉科学）の障害で耳鼻咽喉科学領域の各器官の解剖（構造）・生理（機能）、さらに病態生理を理解することを目的とする。また各論では各疾患毎の病態生理、そしてそれらに対する検査やリハビリテーションなどに関しての言語聴覚士として必要な事項について学習する。 当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う (方法) 耳鼻咽喉科学領域について講義を通して学ぶ。また各論では各疾患毎の病態生理、検査やリハビリテーションなどに関して学習する。			
【一般教育目標 (GIO)】 ・耳鼻咽喉科学領域の各器官の構造・機能・病態について理解を深める。 ・各疾患の病態生理を理解し、検査やリハビリテーションなどについて学ぶ。			
【行動目標 (SBO)】 ・耳鼻咽喉科学領域の各器官の構造・機能を説明できる ・各疾患の病態生理を理解し、それに関わる検査を説明できる			
【教科書・リザーブドブック】 特にありません。			
【参考書】 鳥山 稔・『言語聴覚士のための基礎知識 耳鼻咽喉科学』医学書院，2002 年．¥3,990			
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・成績評価は、記述式試験100%とする。			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		100							100
評価 指標	取り込む力・知識	100							100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	聴覚系の機能構造病態の確認	講義	復習：音とは何か、音の高さ、強さ、大きさ、人間の聴覚、動物の聴覚について	220分
2	外耳の病態	講義	復習：外耳の構造、機能、音響増幅効果	220分
3	中耳の病態	講義	復習：中耳音響インピーダンス、面積比、てこ比、キャンセルエフェクト、各種の中耳炎、鼓膜穿孔による難聴	220分
4	内耳の病態	講義	復習：内耳の構造、内・外リンパ液、進行波、有毛細胞、外膜、蝸牛遠心性神経、求心性神経、前庭、三半規管	220分
5	後迷路～中枢の病態	講義	復習：後迷路性難聴、聴覚伝導路、障害部位による語音明瞭度の違い	220分
6	前庭、三半規管の機能構造	講義	めまいを起こすメカニズム、前庭、三半規管の構造、機能	220分
7	めまい、眼振	講義	眼振の種類、眼振を起こすメカニズム	220分
8	鼻科学	講義	鼻の構造、機能、アレルギー疾患、風邪症候群	220分

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70	20					10	100
評価 指標	取り込む力・知識	70	20						90
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	創傷治癒 遊離皮弁、有茎筋皮弁、遊離組織移植	講義	予習：教科書第1章「損傷・創傷治癒」第2章「組織移植術」を読んでまとめておくこと。 復習：小テストの問題を見直してその内容を理解すること。	220分
2	頭頸部外科手術に伴う障害 瘢痕とケロイド	講義	予習：教科書第7章「再建外科」5章「瘢痕とケロイド」を読んでまとめておくこと。 復習：小テストの問題を見直してその内容を理解すること。	220分
3	顔面外傷 顔面神経麻痺	講義	予習：教科書第4章「顔面外傷・顔面骨折」第7章「顔面神経麻痺」を読んでまとめておくこと。 復習：小テストの問題を見直してその内容を理解すること。	220分
4	潰瘍 熱傷	講義	予習：教科書第6章「難治性潰瘍・褥創」第4章「熱傷」「その他の外傷」を読んでまとめておくこと。 復習：小テストの問題を見直してその内容を理解すること。	220分
5	先天異常	講義	予習：教科書第3章「先天異常概論」を読んでまとめておくこと。 復習：小テストの問題を見直してその内容を理解すること。	220分
6	口唇口蓋裂	講義	予習：教科書第3章「口唇・口蓋」を読んでまとめておくこと。 復習：小テストの問題を見直してその内容を理解すること。	220分
7	口唇口蓋裂以外の頭蓋顔面奇形	講義	予習：教科書第3章「頭蓋・顔面」「耳介」を読んでまとめておくこと。 復習：小テストの問題を見直してその内容を理解すること。	220分
8	まとめと質疑応答	講義・討議	予習：これまで学習した教科書の内容を見直しておくこと。 復習：これまでの小テストの問題を見直してその内容を深く理解すること。	220分

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80		20					100
評価 指標	取り込む力・知識	80		20					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	言語神経学入門Ⅰ 神経コミュニケーション障害の研究における最近 の功労者	講義・PBL	予習・復習	220
2	言語神経学入門Ⅱ 言語に対する脳科学の発展	講義・PBL	予習・復習	220
3	神経系の構造Ⅰ コミュニケーションにおけるヒトの神経系、脳の 保護と栄養摂取	講義・PBL	予習・復習	220
4	神経系の構造Ⅱ 末梢神経系 脳への血液供給 神経構造の一般原理	講義・PBL	予習・復習	220
5	発語と聴覚の神経感覚機構 体性感覚 口腔感覚の解剖学 視覚系	講義・PBL	予習・復習	220
6	発語の神経運動支配 錐体路系 皮質延髄路 下位および上位運動ニューロン	講義・PBL	予習・復習	220
7	脳神経Ⅰ 脳神経の起源 嗅覚と視覚の脳神経	講義・PBL	予習・復習	220
8	脳神経Ⅱ 言語と聴覚のための脳神経 脳神経の協調：嚥下の働き	講義・PBL	予習・復習	220

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		100							100
評価 指標	取り込む力・知識	100							100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション 発声器官の解剖・生理について 発声のメカニズムと声の特徴について	講義	予習：以前に学んだ声に関する授業 の内容を復習しておく 復習：配布資料と授業中のノートの 確認	予習100分 復習120分
2	声の異常について 喉頭の疾患と医学的な分類について	講義	予習：配布資料の該当箇所を読んで おく 復習：配布資料と授業集のノートの 再確認	予習100分 復習120分
3	声の評価、音声障害の診療について 言語聴覚士が行える検査と治療 耳鼻科医が行う検査と治療	講義	予習：配布資料の該当箇所を読んで おく 復習：配布資料と授業集のノートの 再確認	予習100分 復習120分
4	音声障害の治療について 医学的治療法と保存的治療法 気管切開・人工呼吸器について	講義	予習：配布資料の該当箇所を読んで おく 復習：配布資料と授業集のノートの 再確認	予習100分 復習120分
5	各種音声治療の実際① 問診による情報収集 声の衛生指導について	講義 演習	予習：配布資料の該当箇所を読んで おく 復習：配布資料と授業集のノートの 再確認	予習100分 復習120分
6	各種音声治療の実際② 対症療法的治療法について 共鳴強調訓練について	講義	予習：配布資料の該当箇所を読んで おく 復習：配布資料と授業集のノートの 再確認	予習100分 復習120分
7	各種音声治療の実際③ 発声機能拡張訓練について アクセント法について LSVTについて	講義	予習：配布資料の該当箇所を読んで おく 復習：配布資料と授業集のノートの 再確認	予習100分 復習120分
8	喉頭摘出の音声リハビリテーション 喉頭の摘出と無喉頭音声について 無喉頭音声の訓練法について	講義	予習：配布資料の該当箇所を読んで おく 復習：配布資料と授業集のノートの 再確認	予習100分 復習120分

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		100							100
評価指標	取り込む力・知識	100							100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	身近な音に関する知識 音の高さの聴覚範囲 聴覚器官の全体像	講義	復習：P. 4～9、配布資料	220分
2	聴器の構造と機能 外耳の構造と機能	講義	復習：P. 4～9、配布資料	220分
3	聴器の構造と機能 中耳の構造と機能	講義	復習：P. 16～17、配布資料	220分
4	聴器の構造と機能 内耳の構造と機能	講義	復習：P. 18～29、配布資料	220分
5	聴器の構造と機能 後迷路と中枢	講義	復習：P. 18～29、配布資料	220分
6	難聴の種類（伝音難聴） 純音聴力検査、オーディオグラム	講義	復習：P. 42～45	220分
7	難聴の種類（感音難聴、混合難聴） 純音聴力検査、オーディオグラム	講義	復習：P. 42～45	220分
8	聴器の病態・難聴の原因 小テスト	講義 小テスト	復習：P. 16～21、P. 74～129	220分

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			100						100
評価 指標	取り込む力・知識		50						50
	思考・推論・創造の力		50						50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	言語学とは何か。 ・ S T が言語学を学ぶ目的 ・ 言語の一般的特徴（諸性質と諸単位） ・ 日本語学と国語学の違い	講義	言語学とは何かを論理的に説明できるよう復習する。 音声学の復習を行っておく。	220分
2	・ 前回の確認テストと解説 ・ 音声学復習(1)：声や構音生成の器官	講義・討議	・ 確認テストで未理解だった箇所を復習する。 ・ 構音様式や構音器官の名称を確認する。	220分
3	・ 前回の確認テストと解説 ・ 音声学復習(2)：IPA表記	講義・討議・演習	・ 確認テストで未理解だった箇所を復習する。 ・ 構音障害ケースの音声をIPA表記してIPAの復習をする。	220分
4	・ 前回の確認テストと解説 ・ 音韻論(1)：音素と音韻特徴、音韻規則、モーラ(拍)、音節およびその変化	講義・討議	・ 確認テストで未理解だった箇所を復習する。 ・ 音韻論を復習する。	220分
5	・ 前回の確認テストと解説 ・ 音韻論(2)：超文節的特徴	講義・討議	・ 確認テストで未理解だった箇所を復習する。 ・ 超文節特徴を復習する。	220分
6	・ 前回の確認テストと解説 ・ 意義一形態論(1)：形態素とプロセス（派生・複合・屈折）形態論、接頭辞、接尾辞、連濁、異形態・形態音韻論、単語（標識）	講義・討議	・ 確認テストで未理解だった箇所を復習する。 ・ 形態論(1)について復習する。	220分
7	・ 前回の確認テストと解説 ・ 意義一形態論(2)：言語の種類、孤立語・屈折語、概念マトリックス（上位概念と下位概念）、比喩、同音異義語	講義・討議	・ 確認テストで未理解だった箇所を復習する。 ・ 形態論(2) について復習する。	220分
8	・ 前回の確認テストと解説 ・ 意義一形態論(3)：品詞とその分類、述部の動態	講義・討議	・ 確認テストで未理解だった箇所を復習する。 ・ 形態論(3)について復習する。	220分

9	・ 前回の確認テストと解説 ・ 日本語の特徴：成立ち、語彙の特徴、文型の特徴（語順、後置詞）、動詞変形や受け身文の特徴、文字（漢字・かな）	講義・討議	・ 確認テストで未理解だった箇所を復習する。 ・ 日本語の特徴について復習する。	220分
1 0	・ 前回の確認テストと解説 ・ 統語論(1)：文の機能、語順、動詞の膠着形態（ヴォイス・アスペクト・モダリティら）、助詞（格の意味、係助詞）、副用語	講義・討議	・ 確認テストで未理解だった箇所を復習する。 ・ 統語論(1)を復習する。	220分
1 1	・ 前回の確認テストと解説 ・ 統語論(2)：生成文法論	講義・討議	・ 確認テストで未理解だった箇所を復習する。 ・ 統語論(2)生成文法を復習する。	220分
1 2	・ 前回の確認テストと解説 ・ 統語論(3)：文の種類、単文の構造（格の理解・N項述語・多重主語文）、複文（従属節と共起可能な文法要素）、IC分析	講義・討議・演習	・ 確認テストで未理解だった箇所を復習する。 ・ 統語論(3)を復習する。	220分
1 3	・ 前回の確認テストと解説 ・ 意義-意味論：意味と意義、意義素性、意義の諸相、共起制限、敬語	講義・討議	・ 確認テストで未理解だった箇所を復習する。 ・ 意義-意味論を復習する。	220分
1 4	・ 前回の確認テストと解説 ・ 語用論(1)：狭義の言語学と語用論、言語行為論、関連性理論	講義・討議	・ 確認テストで未理解だった箇所を復習する。 ・ 語用論(1)を復習する。	220分
1 5	・ まとめ確認テストと解説 ・ 語用論(2)：臨床の言語学 ・ 言語聴覚症状の言語学的視点	講義・討議	・ 確認テストで未理解だった箇所を復習する。 ・ 臨床の言語学を復習する。	220分

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			100						100
評価 指標	取り込む力・知識		50						50
	思考・推論・創造の力		30						30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢		20						20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	音声学とは何か：音声学の3部門	講義	講義内容の復習をする。	220分
2	・前回の確認小テスト ・テスト解説 ・音声生成（発声発語）のメカニズムと器官の名称(1)	講義 課題解決型学習	・確認テストで未理解だった箇所を復習する。 ・音声生成メカニズムと器官の名称を覚える。	220分
3	・前回の確認小テスト ・テスト解説 ・音声生成（発声発語）のメカニズムと器官の名称(2)	講義 課題解決型学習	・確認テストで未理解だった箇所を復習する。 ・音声生成メカニズムと器官の名称を覚える。	220分
4	・前回の確認小テスト ・テスト解説 ・音声生成様式を知る－国際音声字母による子音	講義 課題解決型学習	・確認テストで未理解だった箇所を復習する。 ・子音のIPA記号を覚える。	220分
5	・前回の確認小テスト ・テスト解説 ・音声生成様式を講義する－国際音声字母による母音	講義 課題解決型学習	・確認テストで未理解だった箇所を復習する。 ・母音の各国IPA記号を覚える。	220分
6	・前回の確認小テスト ・テスト解説 ・日本語音を捉える－IPA音声表記、音素表記、仮名表記、日本語簡易表記の違いを知る	講義 課題解決型学習	・確認テストで未理解だった箇所を復習する。 ・日本語IPA記号表記と簡易表記を覚える。	220分
7	・日本語表記演習 3種の表記－IPA表記、音韻表記、仮名表記の違いを、50音、単語、単文、パラグラフを用いて練習	演習	・演習課題の日本語表記の3種（IPA表記、音韻表記、仮名表記）を再度復習する。	220分
8	・前2回の確認小テスト ・テスト解説	講義・討議	・確認テストで未理解だった箇所を復習する。	220分

9	脳内の音声 ・音韻論－音素、モーラ、音節	講義	音韻論を復習する。	220分
1 0	・音環境によって生じる現象-調音結合など	講義・討議	音環境によって生じる現象を復習する。	220分
1 1	・前2回の確認小テスト ・テスト解説	講義・討議	・確認テストで未理解だった箇所を復習する。	220分
1 2	・超文節的素性－アクセント、イントネーション その他 日本語の特徴	講義 課題解決型学習	超文節的素性と日本語の特徴を復習する。	220分
1 3	・前回の確認小テスト ・テスト解説 ・音響音声学	講義 課題解決型学習	・確認テストで未理解だった箇所を復習する。 ・音響音声学を復習する。	220分
1 4	・前回の確認小テスト ・テスト解説 ・音声学と言語聴覚臨床	講義 課題解決型学習	・確認テストで未理解だった箇所を復習する。 ・音声学の臨床での適応を復習する。	220分
1 5	・総合確認テスト ・テスト解説 ・音声学まとめ	講義・討議	・確認テストで未理解だった箇所を復習する。 ・音声学をまとめて復習する。	240分

【科目名】		言語発達学		【担当教員】	櫻井 晶
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	s156	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	haru-shien@outlook.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 講義日に対応する。	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
事前に関連文献を読む。前講義の復習をする。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
遅刻、欠席、早退は学則に従う。					
【講義概要】					
(目的)					
前言語期から話しことばの獲得、幼児期、学童期の言語発達を理解する。 コミュニケーション、認知、音声知覚、発声器官等の様々な能力の発達が、言語獲得を促していく過程を理解する。 当該科目と学位授与方針等との関連性:専門領域に関する多様な課題を発見分析し自ら解決する能力を養う。					
(方法)					
配布資料を使用して、0歳から学童期までの言語発達を、前言語期、話しことばの出現、語彙の増加、文の獲得、読み書きという段階に従って解説する。乳幼児期の言語発達については、動画を用いる。レポートのフィードバック方法はコメントを付けて返却する。					
【一般教育目標(GIO)】					
誕生からことばを獲得していくプロセスを、前言語期、話しことばの出現、語彙の増加、文の獲得、読み書きという発達の順序性を理解して説明できる。					
【行動目標(SB0)】					
音声知覚、コミュニケーション、認知、発声等の発達によって話しことばが育つ過程が説明できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
著者 岩立志津夫 編 小椋たみ子 編：よくわかる言語発達 [改訂新版] ミネルヴァ書房					
【参考書】					
今泉敏編集：言語聴覚士のための基礎知識 音声学・言語学、医学書院 岡本夏木：子どもとことば、岩波新書 秦野悦子編集：ことばの発達入門 (入門コース・ことばの発達と障害)、大修館書店					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 レポート (100%)で評価する。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			50					50
	思考・推論・創造の力			50					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	言語発達の基礎	講義	配布する資料、文献を読んでおく。	180
2	言語発達研修の歴史	講義	配布する資料、文献を読んでおく。 前時間の講義を復習する。	180
3	言語発達の生物学的基礎	講義	配布する資料、文献を読んでおく。 前時間の講義を復習する。	180
4	言語発達の障害の基礎	講義	配布する資料、文献を読んでおく。 前時間の講義を復習する。	180
5	言語発達の障害の実際	講義	配布する資料、文献を読んでおく。 前時間の講義を復習する。	180
6	言語発達障害の最近のトピック	講義	配布する資料、文献を読んでおく。 前時間の講義を復習する。	180
7	言語発達障害研究の最近のトピック	講義	配布する資料、文献を読んでおく。 前時間の講義を復習する。	180
8	まとめ	講義	配布する資料、文献を読んでおく。 前時間の講義を復習する。	180

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		100							100
評価指標	取り込む力・知識	100							100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	音響学を学ぶ前の基礎知識 指数、速さ・時間・距離、単位の接頭語	講義	配付資料の復習をすること	220分
2	音入門 波形、周波数、周期、振幅、波長、音速	講義	配付資料の予習・復習をすること	220分
3	音響スペクトル 純音、複合音、周期音、非周期音	講義	配付資料の予習・復習をすること	220分
4	音の物理的特性 屈折、反射、吸音、干渉、うなり、ドップラー効果	講義	配付資料の予習・復習をすること	220分
5	音のデジタル化 標本化、量子化	講義	配付資料の予習・復習をすること	220分
6	音声学 母音と子音	講義	配付資料の予習・復習をすること	220分
7	音源フィルター理論 共鳴と母音の生成	講義	配付資料の予習・復習をすること	220分
8	スペクトログラム 母音、摩擦音、破裂音、その他の音声の特徴	講義	配付資料の予習・復習をすること	220分

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		100							100
評価 指標	取り込む力・知識	100							100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	聴覚心理学入門 ・聴覚心理学とは ・聴野 ・聴覚閾値	講義	復習：配布資料	220分
2	強さと大きさ ・音の強さと大きさの関係 ・等感曲線	講義	復習：配布資料	220分
3	大きさの単位、強さの弁別 ・ゾーンとフォン ・強さの弁別	講義	復習：配布資料	220分
4	高さの単位 ・メル 周波数の弁別 ・周波数の弁別	講義	復習：配布資料	220分
5	マスキング ・マスキングの定義 ・マスキングの効果 ・臨界帯域	講義	復習：配布資料	220分
6	音の持続時間と聴覚 ・持続時間と可聴性 ・聴覚疲労と聴覚順応	講義	復習：配布資料	220分
7	聴覚のさまざまな知覚現象 ・マガーク効果 ・結合音 ・両耳聴など	講義	復習：配布資料	220分
8	音声の知覚 ・ソースフィルタ理論 ・サウンドスペクトログラム	講義	復習：配布資料	220分

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			20	80					100
評価指標	取り込む力・知識		20	40					60
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢			20					20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	我が国の社会保障制度の変遷とその特徴	講義	復習：講義の復習 レポート作成	220分
2	生涯を支える社会保障の全体像	講義	復習：講義の復習 レポート作成	220分
3	社会保険の仕組み	講義	復習：講義の復習 レポート作成	220分
4	年金制度の概要	講義	復習：講義の復習 レポート作成	220分
5	介護保険の現状と課題	講義	復習：講義の復習 レポート作成	220分
6	医療保険の概要	講義	復習：講義の復習 レポート作成	220分
7	公的扶助	講義	復習：講義の復習 レポート作成	220分
8	これからの社会保障のあり方	講義	復習：講義の復習 レポート作成	220分

【科目名】リハビリテーション概論		【担当教員】高橋 明美
【授業区分】専門科目	【授業コード】s160	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】選択	a_takahashi@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】8	(オフィスアワー) 月～金 8:30-18:00
【注意事項】		
(受講者に関わる情報・履修条件)		
・リハビリテーションは、リハビリテーション専門職の学生にとり基本中の基本、不可欠な基礎知識の講義です。必ず全講義に出席してください。		
・この科目は実務経験者対応科目です。長年臨床経験がある理学療法士がリハビリテーションをトータルに教授します。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識)		
レポートについては、返却します。		
予習も大事ですが、復習がさらに重要となります。前回の講義内容を十分復習してから受講してください。		
【講義概要】		
(目的)		
リハビリテーションに対する正しい理解と知識を学習し、専門職種としての基本的な姿勢や考え方を身につけ、臨床の場で活用できるようにする。このことにより、多職種がリハビリテーションについて共通の価値観を修得し、多面的な支援の提供ができることを目的とする。		
当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う。		
(方法)		
テキストを用いて、体系的に学ぶよう講義を進めます。特に、“リハビリテーションとは何か”その本質に触れ、現在のリハビリテーションの仕組みを正しく知ることを第一のテーマとして、リハビリテーションの理念、歴史的変遷、障害者と障害のレベル、障害の測定・評価法などの実例を提示して進めます。		
【一般教育目標(GIO)】		
保健・医療・福祉に及ぶ広範囲なリハビリテーション分野を深く理解する。		
【行動目標(SBO)】		
1．リハビリテーションの理念、歴史的変遷について説明できる。2．障害の概念や分類について説明できる。3．リハビリテーションの過程について説明できる。4．各専門職の役割、チームアプローチについて説明できる。5．リハビリテーションを支える諸制度について説明できる。6．ICFに基づく障害の測定・評価方法について説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】		
【参考書】		
真柄彰、他：メディカルスタッフ専門基礎科目シリーズ，リハビリテーション概論，理工図書，2017，¥4700（税別）		
【評価に関わる情報】		
(評価の基準・方法)		
成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。		
成績評価は、レポート、その他により総合的に評価する。		
出席点は評価には含みません。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				80				20	100
評価 指標	取り込む力・知識			60					60
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1 前期	リハビリテーションの概念・理念、定義	講義 課題解決型学習	(予習) 指定教科書に目を通しておく (復習) 講義で配布された資料、教科書(pp1-18)を読むこと	90 90
2 前期	健康と障害の概念、分類	講義 課題解決型学習	(予習) 前回の講義の復習 (復習) 講義で配布された資料、教科書(pp19-30)を読むこと	90 90
3 前期	リハビリテーションの過程 チームアプローチ	講義 課題解決型学習	(予習) 前回の講義の復習 (復習) 講義で配布された資料、教科書(pp69-80, 117-124)を読むこと	90 90
4 前期	リハビリテーションの諸段階、諸制度	講義 課題解決型学習	(予習) 前回の講義の復習 (復習) 講義で配布された資料、教科書(pp81-98)を読むこと	90 90
5 前期	医療とリハビリテーション専門職、役割 理学療法概論	講義 課題解決型学習	(予習) 前回の講義の復習 (復習) 講義で配布された資料、教科書(pp99-116)を読むこと	90 90
6 前期	作業療法概論	講義 課題解決型学習	(予習) 前回の講義の復習 (復習) 講義で配布された資料、教科書(pp99-116)を読むこと	90 90
7 前期	言語聴覚概論	講義 課題解決型学習	(予習) 前回の講義の復習 (復習) 講義で配布された資料、教科書(pp99-116)を読むこと	90 90
8 前期	リハビリテーション心理 レポート課題提示	講義 課題解決型学習	(予習) 前回の講義の復習 (復習) 講義で配布された資料、教科書(pp99-116)を読むこと	90 90

【科目名】		言語聴覚障害学総論		【担当教員】	高橋 圭三
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	dbmhS161	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	takahashik@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	2	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 月曜、木曜の16：50～	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
この科目は、言語聴覚障がいに関する種類、対象、原因、援助方法などを広く学ぶための構成になっている。よって、言語聴覚士や言語聴覚障害に関する概要を理解するものとして、言語聴覚士国家試験受験予定者だけでなく、他のコースの方も受講できるものとなっている。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
講義でDVDを見る機会があり、遠方の方で、こちらに来れない場合は、自宅でDVDを借りて見てもらうことがあります。その他は、スライドを中心に講義を行います。					
【講義概要】					
(目的)					
言語聴覚士の職務内容や職業倫理、対象患者などの理解を深める。人間がコミュニケーションをとるための聴覚や発声・発語に関する生理学的側面、また記憶や思考といった高次脳機能に関する側面、さらにそれらの機能を障害することによる様々な言語障害に対する知識を包括的に学ぶ。					
当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う					
(方法)					
スライドを中心に講義を行います。DVDをみることもあります。必要に応じてグループで討論することもあります。サテライトなど、webで受講する場合は1人で考えてもらいます。					
・レポートはコメントを付して返却します。					
・専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う					
【一般教育目標 (GIO)】					
言語聴覚障がいに関する種類、対象、原因、援助方法などを広く学ぶ。また、特に言語聴覚士に関する、言語聴覚療法、法律、歴史、職業倫理などについても学ぶ。					
【行動目標 (SBO)】					
・言語聴覚障害の種類、対象、原因、援助方法を説明できる。					
・言語聴覚士に関する言語聴覚療法、法律、歴史、職業倫理について説明できる。					
・言語聴覚士に必要な態度について理解を深める。					
【教科書・リザーブドブック】					
特にございません。					
【参考書】					
藤田郁代 監修『標準言語聴覚障害学 言語聴覚障害学概論』 医学書院, 2010年 ¥5,000 (税別)					
熊倉勇美, 種村純 編集『やさしく学べる 言語聴覚障害入門』永井書店, 2011年. ¥5,000 (税別)					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。					
・成績評価は、レポートの達成度100%とする。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価 指標	取り込む力・知識			80					80
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション、 言語聴覚士、言語聴覚障害とは	講義	講義の復習 レポート作成	220分
2	言語聴覚障害学の種類、対象、原因	講義	講義の復習 レポート作成	220分
3	言語聴覚士の歴史	講義	講義の復習 レポート作成	220分
4	言語聴覚療法とは	講義	講義の復習 レポート作成	220分
5	言語聴覚療法の流れ	講義	講義の復習 レポート作成	220分
6	言語聴覚士に関する法律	講義	講義の復習 レポート作成	220分
7	言語聴覚士に関する職業倫理	講義	講義の復習 レポート作成	220分
8	言語聴覚療法に関する映画鑑賞	映画鑑賞	レポート作成 吃音や映画内に出てきたSTなどの役 割について学習する	220分

9	言語聴覚療法に関する映画鑑賞	映画鑑賞 感想文作成	レポート作成 吃音や映画内に出てきたSTなどの役割について学習する	220分
10	成人分野の言語聴覚療法	講義	講義の復習 レポート作成	220分
11	摂食嚥下障害	講義	講義の復習 レポート作成	220分
12	小児分野の言語聴覚療法	講義	講義の復習 レポート作成	220分
13	実際の言語聴覚療法	講義	講義の復習 レポート作成	220分
14	実際の言語聴覚療法	講義	講義の復習 レポート作成	220分
15	まとめ レポート作成	講義 レポート作成	講義の復習 レポート作成	220分

【科目名】言語聴覚障害診断学		【担当教員】高橋 圭三	
【授業区分】専門科目	【授業コード】□3162	(メールアドレス)	
【開講時期】前期	【選択必修】選択	takahashik@nur.ac.jp、takahashik@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】2	【コマ数】15	(オフィスアワー) 伊林：火～木、高橋：月、木16：50	
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 実際の言語聴覚療法を行うのに必要な事柄を学ぶ。 この科目を履修するには、言語聴覚学総論を事前に修得していることが望まれる。本科目は伊林12コマ、高橋3コマで構成され、順不同で講義を行う場合がある。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 言語聴覚士国家試験受験に必要な科目である。			
【講義概要】 (目的) 言語聴覚士が行う評価スキルを学ぶ。専門的な評価方法を円滑に行うための知識・技術を身につけることを目的とする。また言語障害を正確に評価するための診断法を学ぶ。また、失語症、高次脳機能障害の基礎を含め、成人言語障害について深く学ぶ。 当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う (方法) ・スライドを使ったものから、実際の演習も含めて講義を行う。 ・専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う			
【一般教育目標 (GIO)】 ・臨床に必要なマナー、服装、言葉使いを心がけることができる。 ・言語聴覚士の臨床活動を理解できる。 ・臨床観察眼を養うことの大切さを知る。			
【行動目標 (SB0)】 ・臨床に必要なマナー、態度を身につける。 ・言語聴覚士の臨床活動を、失語、高次脳機能障害など各項目について理解する。 ・言語聴覚障害のみならず、対象者の抱えている問題点や悩みなどを理解する。			
【教科書・リザーブドブック】 特になし			
【参考書】 深浦 順一， 爲数 哲司，内山 量史著『言語聴覚士のための臨床実習テキスト 成人編』建帛社，2017年 ¥ 3,672円（税込） 平野哲雄，他編『言語聴覚療法 臨床マニュアル 改訂第3版』協同医書出版，2014年 ¥6,800（税別）			
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・成績評価は、試験100%とする。			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		100							100
評価 指標	取り込む力・知識	100							100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	□ オリエンテーション、 言語聴覚士が行う「評価」に必要なこと	講義、高橋	該当箇所の配布資料の復習と、次の 領域の予習 レポート作成	220分
2	臨床の前に 臨床に必要なマナー、個人情報保護 面接技法	講義、高橋	該当箇所の配布資料の復習と、次の 領域の予習 レポート作成	220分
3	時期ごとの脳血管障害リハビリテーション リハビリテーションにおける各職種の役割 言語聴覚療法の流れ スクリーニング	講義、高橋	該当箇所の配布資料の復習と、次の 領域の予習 レポート作成	220分
4～9	失語症の基礎 失語症の臨床	講義、伊林	該当箇所の配布資料の復習と、次の 領域の予習 レポート作成	各220分
10～15	高次脳機能障害の基礎 高次脳機能障害の臨床	講義、伊林	該当箇所の配布資料の復習と、次の 領域の予習 レポート作成	各220分

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			50					50
	思考・推論・創造の力			50					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	言語発達障害とは復習	講義	教科書の関連する頁と資料を読んでおくこと。	160
2	言語発達障害の評価と診断	講義	教科書の関連する頁と資料を読んでおくこと。	160
3	言語発達の評価と支援	講義	教科書の関連する頁と資料を読んでおくこと。	160
4	IDC-10とDSM-5の診断基準 ASDとADHD特性について	講義	教科書の関連する頁と資料を読んでおくこと。	160
5	就学判断、内服療法について	講義	教科書の関連する頁と資料を読んでおくこと。	160
6	発達検査①	講義	教科書の関連する頁と資料を読んでおくこと。	160
7	ASD、ADHD検査	講義	教科書の関連する頁と資料を読んでおくこと。	160
8	訓練、支援方法①	講義	教科書の関連する頁と資料を読んでおくこと。	160

9	応用行動分析	講義	教科書の関連する頁と資料を読んでおくこと。	160
10	応用行動分析も用いた言語療法	講義	教科書の関連する頁と資料を読んでおくこと。	160
11	障害児通所支援事業における多職種連携	講義	教科書の関連する頁と資料を読んでおくこと。	160
12	障害児通所支援事業における多職種連携	講義	教科書の関連する頁と資料を読んでおくこと。	160
13	障害児通所支援事業における多職種連携	講義	教科書の関連する頁と資料を読んでおくこと。	160
14	ペアレント・トレーニングとこどもとの関り	講義	教科書の関連する頁と資料を読んでおくこと。	160
15	まとめ	講義	教科書の関連する頁と資料を読んでおくこと。	160

【科目名】言語発達障害学各論		【担当教員】櫻井 晶、齋藤 武	
【授業区分】専門科目	【授業コード】s 164	(メールアドレス)	
【開講時期】前期	【選択必修】選択	haru-shien@outlook.jp	
【単位数】2	【コマ数】15	(オフィスアワー) 講義日に対応する。	
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 事前に指定した教科書の関連頁を読む。前講義の復習をする。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 遅刻、欠席、早退は学則に従う。			
【講義概要】 (目的) 1. 言語発達障害の概要と特徴を理解する。 2. 自閉症スペクトラム障害、知的障害、学習障害、特異的言語発達障害、注意欠陥多動性障害、脳性麻痺・重度重複障害の疾患概念、症状、評価・支援の基本を理解する。 当該科目と学位授与方針等との関連性: 専門領域に関する多様な課題を発見分析し自ら解決する能力を養う。 (方法) 教科書と資料を使用し、代表的な言語発達障害（自閉症スペクトラム障害、学習障害、特異的言語発達障害、注意欠陥多動性障害、脳性麻痺・重度重複、知的障害）の疾患概念、症状、評価・治療の基本を概説する。障害理解のために事例の動画などを用いる。各言語発達障害の学習のまとめとして確認テストを実施し、解答時に解説する。			
【一般教育目標(GIO)】 自閉症スペクトラム障害、学習障害、特異的言語発達障害、注意欠陥多動性障害、脳性麻痺・重度重複、知的障害の疾患概念、症状、評価・治療について説明できる。			
【行動目標(SBO)】 言語発達障害の概要とそれぞれの障害の原因や障害特性、指導や治療について理解して説明できる。			
【教科書・リザーブドブック】 藤田郁代監修：標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 第3版、医学書院			
【参考書】 石田宏代、大石敬子編集：言語聴覚士のための言語発達障害学、医歯薬出版			
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 試験成績（100%）で評価する。			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		100							100
評価 指標	取り込む力・知識	50							50
	思考・推論・創造の力	50							50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	言語発達障害とは①	講義	指定した教科書の関連頁を読んでおく。	160
2	言語発達障害とは②	講義	指定した教科書の関連頁を読んでおく。前講義の復習をする。	160
3	言語発達障害の評価と診断①	講義	指定した教科書の関連頁を読んでおく。前講義の復習をする。	160
4	言語発達障害の評価と診断②	講義	指定した教科書の関連頁を読んでおく。前講義の復習をする。	160
5	言語発達障害の評価と支援①	講義	指定した教科書の関連頁を読んでおく。前講義の復習をする。	160
6	言語発達障害の評価と支援②	講義	指定した教科書の関連頁を読んでおく。前講義の復習をする。	160
7	関連する障害の特性と支援①	講義	指定した教科書の関連頁を読んでおく。前講義の復習をする。	160
8	関連する障害の特性と支援②	講義	指定した教科書の関連頁を読んでおく。前講義の復習をする。	160

9	脳性麻痺・重複障害①	講義	指定した教科書の関連頁を読んでおく。前講義の復習をする。	160
10	脳性麻痺・重複障害②	講義	指定した教科書の関連頁を読んでおく。前講義の復習をする。	160
11	医療ケア児支援①	講義	指定した教科書の関連頁を読んでおく。前講義の復習をする。	160
12	医療ケア児支援②	講義	指定した教科書の関連頁を読んでおく。前講義の復習をする。	160
13	医療ケア児支援③	講義	指定した教科書の関連頁を読んでおく。前講義の復習をする。	160
14	言語発達障害の療育・支援	講義	指定した教科書の関連頁を読んでおく。前講義の復習をする。	160
15	まとめ	講義	指定した教科書の関連頁を読んでおく。前講義の復習をする。	160

【科目名】言語発達障害学演習		【担当教員】櫻井 晶
【授業区分】専門科目	【授業コード】s165	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】選択	haru-shien@outlook.jp
【単位数】1	【コマ数】8	(オフィスアワー) 講義日に対応する。
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 事前に検査に目を通しておく。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 遅刻、欠席、早退は学則に従う。		
【講義概要】 (目的) 1. 言語発達障害の臨床で使用されている代表的な検査の理論と方法を理解して正しく実施できる。 2. 検査結果の評価ができる。 3. 評価をもとに適切な訓練計画を立てることができる。 当該科目と学位授与方針等との関連性:専門領域に関する多様な課題を発見分析し自ら解決する能力を養う。 (方法) 代表的な知能検査と発達検査の理論と方法を解説し、実際に用具を使って検査して結果を評価し、支援への活用を考える。臨床で用いられている複数の言語発達検査と知能検査の特徴や適応年齢を解説し、理解を進める。試験は解答例を示す。		
【一般教育目標 (GIO)】 言語発達障害の臨床で用いられる検査の理論と実施方法を理解し、正しく実施し評価し、適切な支援方法を考えることができる。		
【行動目標 (SB0)】 各検査の特徴と適応年齢を理解し、症例に合った適切な検査による訓練計画を立てることができる。		
【教科書・リザーブドブック】 藤田郁代監修「標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 第3版」医学書院 参考書の中から必要な資料を配布する。		
【参考書】 各種検査の実施、結果評価についての資料。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 ・レポート (100%)で評価する。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		100							100
評価 指標	取り込む力・知識	70							70
	思考・推論・創造の力	30							30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	小児用検査①	演習	検査に目を通しておく、関連する資料を読んでおく	180
2	小児用検査①	演習	検査に目を通しておく、関連する資料を読んでおく	180
3	発達障害児支援の見学	演習	検査に目を通しておく、関連する資料を読んでおく	180
4	発達障害児支援の見学	演習	検査に目を通しておく、関連する資料を読んでおく	180
5	発達障害児と関わり特性をつかむ	演習	検査に目を通しておく、関連する資料を読んでおく	180
6	発達障害児と関わり特性をつかむ	演習	検査に目を通しておく、関連する資料を読んでおく	180
7	評価を実施する	演習	検査に目を通しておく、関連する資料を読んでおく	180
8	評価を実施する	演習	今まで学んだ検査について復習しておく	180

【科目名】		音声障害学		【担当教員】	高橋 圭三
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	s166	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	takahashik@nur.ac.jp、takahashik@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 月曜、木曜の16：50～	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
基本的に言語聴覚障害コースの学生を対象とする。言語聴覚士国家試験受験に必要な科目である。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
・発声発語器官の解剖学・生理学・神経学、ならびに発声に関する音響学を理解していること。 ・専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。					
【講義概要】					
(目的)					
声の生成に関与する中枢神経系・末梢神経系およびそれに関連する各器官について、医学的知識とともに言語聴覚士が専門家として実施する訓練治療手技を身につけることを目的とする。					
(方法)					
呼吸と発声のメカニズム、病態、評価、治療法について、講義や演習を通して学ぶ。 ・試験問題（再試験問題除く）は返却する。					
【一般教育目標(GIO)】					
・音声（発声）の仕組みを理解し、音声障害のほか、摂食・嚥下障害や運動障害性構音障害にも応用できる知識を修得する。 ・気管切開カニューレや無喉頭音声時の仕組みに関する知識を修得する。 ・音声障害に対する適切な聴覚的判定力と音声治療の施行技能を修得する。					
【行動目標(SBO)】					
・発声のメカニズムを詳細に説明できる。 ・発声の仕組みを動画としてイメージできる。 ・病的音声の評価法の種類と特徴について説明ができる。 ・音声（発声）障害の種類と原因について説明ができる。 ・音声（発声）障害に対して適切な治療法が選択でき、正しく指導できる					
【教科書・リザーブドブック】					
【参考書】					
大森孝一編：言語聴覚士のための音声障害学。医歯薬出版、2015。 廣瀬 肇・『STのための音声障害診療マニュアル』インテリ出版、2008年。¥3,500（税別） 荏安 誠・城本修編著『言語聴覚療法シリーズ14 改訂 音声障害』建帛社、2012年。¥3,100（税別）					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ・成績評価は、記述式試験100％とする。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		100							100
評価 指標	取り込む力・知識	100							100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション 発声器官の解剖・生理について 発声のメカニズムと声の特徴について	講義	予習：以前に学んだ声に関する授業 の内容を復習しておく 復習：配布資料と授業中のノートの 確認	予習100分 復習120分
2	声の異常について 喉頭の疾患と医学的な分類について	講義	予習：配布資料の該当箇所を読んで おく 復習：配布資料と授業集のノートの 再確認	予習100分 復習120分
3	声の評価、音声障害の診療について 言語聴覚士が行える検査と治療 耳鼻科医が行う検査と治療	講義	予習：配布資料の該当箇所を読んで おく 復習：配布資料と授業集のノートの 再確認	予習100分 復習120分
4	音声障害の治療について 医学的治療法と保存的治療法 気管切開・人工呼吸器について	講義	予習：配布資料の該当箇所を読んで おく 復習：配布資料と授業集のノートの 再確認	予習100分 復習120分
5	各種音声治療の実際① 問診による情報収集 声の衛生指導について	講義 演習	予習：配布資料の該当箇所を読んで おく 復習：配布資料と授業集のノートの 再確認	予習100分 復習120分
6	各種音声治療の実際② 対症療法的治療法について 共鳴強調訓練について	講義	予習：配布資料の該当箇所を読んで おく 復習：配布資料と授業集のノートの 再確認	予習100分 復習120分
7	各種音声治療の実際③ 発声機能拡張訓練について アクセント法について LSVTについて	講義	予習：配布資料の該当箇所を読んで おく 復習：配布資料と授業集のノートの 再確認	予習100分 復習120分
8	喉頭摘出の音声リハビリテーション 喉頭の摘出と無喉頭音声について 無喉頭音声の訓練法について	講義	予習：配布資料の該当箇所を読んで おく 復習：配布資料と授業集のノートの 再確認	予習100分 復習120分

【科目名】運動障害性構音障害学		【担当教員】高橋 圭三
【授業区分】専門科目	【授業コード】s167	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】選択	takahashik@nur.ac.jp、takahashik@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】2	【コマ数】15	(オフィスアワー) 月曜、木曜の16：50～
【注意事項】		
(受講者に関わる情報・履修条件)		
大学院言語聴覚障害コースに在籍している者。言語聴覚士国家試験受験に必要な科目である。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識)		
適宜レポートなどを指示することがある。提出されたレポートは各自にフィードバックを行い、その後の学習に役立てる。		
【講義概要】		
(目的)		
神経疾患によるコミュニケーション障害の中に、運動障害性構音障害（dysarthria）を位置づける。dysarthriaを起こす機序を解剖、生理学的なメカニズムから理解させる。dysarthriaの評価・診断について学び、付随しやすい音声障害や摂食嚥下障害などとの関連性も踏まえて考えていく。さらに、治療手技を学び、評価から適切な治療を選択し、実践できる力を養う。運動訓練の原則や、対象者のdysarthriaのタイプ、障害受容、社会背景などあるゆる角度から対象者に適切な支援を考えることができるようにする。専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。		
(方法)		
講義を中心に行う。講義課程の中で随時発言を求め、知識の確認を行う。 試験は返却し、解答の解説も行う。		
【一般教育目標(GIO)】		
発声発語に関する神経系、運動器の構造と働きを理解し、運動障害性構音障害の種類、特徴、評価、治療をそれらに関連づけて理解できる。		
【行動目標(SBO)】		
運動障害性構音障害の種類と特徴をその障害されている神経系と関連づけて説明することができる。		
【教科書・リザーブドブック】		
特になし		
【参考書】		
藤田郁代監修・標準言語聴覚障害診断学 発声発語障害学（第2版） 医学書院 2015年 5,400円+税 西尾正輝・ディサースリア臨床標準テキスト 医歯薬出版 2007年 4,200円+税		
【評価に関わる情報】		
(評価の基準・方法)		
成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 レポートを主体に、受講態度、発言力などを総合して評価する。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		100							100
評価指標	取り込む力・知識	80							80
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	運動障害性構音障害学概論	講義	人の言葉の仕組みの復習を行うこと。	220分
2	発声発語と神経・筋系の仕組み	講義	神経系の構造の復習を行うこと。	220分
3	発声発語器官の神経制御	講義	発声発語器官の解剖の復習を行うこと。	220分
4	運動障害性構音障害の原因疾患	講義	神経系の疾患の復習を行うこと。	220分
5	障害のタイプと特徴	講義	運動系についての復習を行うこと。	220分
6	発話特徴の抽出	講義	発話特徴抽出の復習を行うこと。	220分
7	運動障害性構音障害の評価法	講義・演習	標準ディサースリア検査の復習を行うこと。	220分
8	運動障害性構音障害の評価法	講義・演習	標準ディサースリア検査の復習を行うこと。	220分

9	運動障害性構音障害の評価法	講義・演習	標準ディサースリア検査の復習を行うこと。	220分
10	運動障害性構音障害の評価法	講義・演習	標準ディサースリア検査の復習を行うこと。	220分
11	運動障害性構音障害の評価法	講義・演習	標準ディサースリア検査の復習を行うこと。	220分
12	運動障害性構音障害の治療法：運動機能に対するアプローチ	講義	発声発語器官とその周辺の筋走行の復習を行うこと。	220分
13	運動障害性構音障害の治療法：構音に対するアプローチ	講義	口腔構音器官についての復習を行うこと。	220分
14	運動障害性構音障害の治療法：代替コミュニケーション	講義	ハイテクコミュニケーションエイドの復習を行うこと。	220分
15	まとめ	講義	ハイテクコミュニケーションエイドの復習を行うこと。	220分

【科目名】器質性構音障害学		【担当教員】佐藤 真由美
【授業区分】専門科目	【授業コード】s168	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】選択	mizugame000@yahoo. co. jp
【単位数】1	【コマ数】8	(オフィスアワー) 来学時に対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 特になし (受講のルールに関わる情報・予備知識)		
【講義概要】 (目的) 器質性構音障害に関する症状、発生原因、評価および情報収集について学習する。異常構音に対する治療アプローチを理解する。 学位授与の方針と当該授業科目の関連：専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。 (方法) 器質性構音障害について理解を深め、ビデオ教材を活用しながら具体的症例を交え構音障害の症状や評価、治療法について学ぶ。 試験・レポートのフィードバック方法：コメントを付して返却する。		
【一般教育目標(GIO)】 器質・機能性構音障害学に関する基礎知識を習得する。 診断性を修得する。 訓練・指導計画を立案でき、訓練指導の実際を理解する。 【行動目標(SBO)】 各種検査を模擬的に実施することが出来る。 検査結果をもとに所見を述べる事ができる。 治療方針を考察することができる。		
【教科書・リザーブドブック】 言語聴覚療法シリーズ8 器質性構音障害 斉藤裕恵 編著 建帛社		
【参考書】		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		100							100
評価 指標	取り込む力・知識	100							100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	構音障害概説	講義	口腔構音器官の解剖	220
2	構音検査の実際	講義	前回講義の復習	220
3	必要な情報の収集法	講義	前回講義の復習	220
4	器質性構音障害の検査・診断・評価	講義	前回講義の復習	220
5	異常構音	講義	前回講義の復習	220
6	鼻咽腔閉鎖機能の形態と原因	講義	耳鼻咽喉科学	220
7	口腔顔面領域の異常と構音障害	講義	前回講義の復習	220
8	総合的な治療方法と治療計画の立案	講義	前回講義の復習	220

【科目名】機能性構音障害学		【担当教員】櫻井 晶、須貝 悠人
【授業区分】専門科目	【授業コード】s169	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】選択	
【単位数】1	【コマ数】8	
(オフィスアワー) 講義日に対応する。		
【注意事項】		
(受講者に関わる情報・履修条件)		
事前に関連文献を読む。前講義の復習をする。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識)		
遅刻、欠席、早退は学則に従う。		
【講義概要】		
(目的)		
機能性構音障害の概要、評価、訓練方法等について理解し、実際に指導ができる基礎的能力を養う。		
当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。		
(方法)		
機能性構音障害を熟知し、構音の評価ができるように学習する。訓練は体験により指導方法を学ぶ。		
レポート内容は症例の音声サンプルを聴き構音検査を用いて評価から分析、訓練プログラムを立案する		
【一般教育目標 (GIO)】		
機能性構音障害の概要、検査、訓練について理解する。		
【行動目標 (SBO)】		
機能性構音障害の評価から症状を分析し、訓練プログラムを立案することができる。		
【教科書・リザーブドブック】		
適宜配布する。		
【参考書】		
・阿部雅子：構音障害の臨床 - 基礎知識と実践マニュアル - 改訂第2版. 金原出版, 東京, 2008.		
・本間慎治, 東江浩美, 為数哲司, 原修一, 井村弘子：言語聴覚療法シリーズ7 改訂 機能性構音障害. 建帛社, 東京, 2007		
・今村亜子：構音訓練に役立つ 音声表記・音素表記 記号の使い方ハンドブック. 協同医書出版社, 東京, 2016.		
【評価に関わる情報】		
(評価の基準・方法)		
・成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。		
・レポート100%で評価する。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価 指標	取り込む力・知識			50					50
	思考・推論・創造の力			50					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	機能性構音障害の概要と基礎的知識	講義	配付資料の復習	180
2	構音障害の症状と評価診断のための検査	講義	配付資料の復習	180
3	構音障害の治療	講義	配付資料の復習	180
4	構音障害の具体的な訓練方法（１） ～音作りから単語レベルまで～	講義	配付資料の復習	180
5	構音障害の具体的な訓練方法（２） ～文レベルから日常会話への般化を目指して～	講義	配付資料の復習	180
6	新版構音検査の実施方法と記録の仕方	講義 演習	配付資料の復習	180
7	新版構音検査の評価	講義 演習	配付資料の復習	180
8	機能性構音障害のまとめ、質疑応答	講義	配付資料の復習	180

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		90						10	100
評価指標	取り込む力・知識	90							90
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	- 講義に関するオリエンテーション - 吃音・流暢性障害の一般的知見と重要性	講義	「吃音症」に関する一般的な情報について、インターネット検索で調べ、吃音症に対する社会的視点について簡単に整理しておく。	220
2	流暢性障害の学際的概要および種類と特徴 歴史、ICF位置づけ、タイプ別の症状	講義	事前に配布する講義資料の該当部分に目を通しておく。	220
3	- 吃音症の原因論と発生メカニズム（諸説） 学際的知見と今後の方向性 - 幼児期の発話流暢性の発達機序と吃音	講義	事前に配布する講義資料の該当部分に目を通しておく。	220
4	他の障害を重複する吃音症の特徴 学際的知見と今後の方向性	講義	事前に配布する講義資料の該当部分に目を通しておく。	220
5	流暢性障害の評価・診断 一部音声サンプルの評価演習	講義 演習	事前に配布する講義資料の該当部分に目を通しておく。	220
6	流暢性障害の治療（間接法と直接法）Ⅰ 環境調整法、流暢性形成法、吃音緩和法 統合法、その他、種々の治療法	講義	事前に配布する講義資料の該当部分に目を通しておく。	220
7	流暢性障害の治療（間接法と直接法）Ⅱ 種々の治療法について事例を通して触れる	講義	事前に配布する講義資料の該当部分に目を通しておく。	220
8	流暢性障害の心理的要因と環境要因 当事者を取り巻く地域社会（団体・組織の社会的活動）の在り方と支援	講義	事前に配布する講義資料の該当部分に目を通しておく。	220

【科目名】		小児聴覚障害学		【担当教員】		高橋 圭三	
【授業区分】		専門科目		【授業コード】		s171	
【開講時期】		前期		【選択必修】		選択	
【単位数】		1		【コマ数】		8	
【注意事項】							
(受講者に関わる情報・履修条件)							
言語聴覚士の国家試験受験に必要な科目である。							
(受講のルールに関わる情報・予備知識)							
・聴覚検査の知識を有していること。							
【講義概要】							
(目的)							
聴覚障害を持つ児の評価と支援について学ぶ。							
当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域に関する課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う							
(方法)							
主として配布資料を使用して講義を行います。							
・試験の答えは返却する。また、解答を示す。							
【一般教育目標 (GIO)】							
聴覚障害を持つ児の評価方法、支援方法がわかる。							
【行動目標 (SBO)】							
・ 正常な聴能発達を知る。							
・ 聴覚障害児の発達上の課題を知る。							
・ 聴覚障害児の評価方法を知る。							
・ 聴覚障害児の指導方法と保護者への指導方法を知る。							
【教科書・リザーブドブック】							
指定しない							
【参考書】							
・ 中村公枝、城間将江、鈴木恵子 標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 医学書院							
・ 山田弘幸 言語聴覚療法シリーズ6 改訂聴覚障害Ⅱ 臨床編 建帛社							
・ 船坂宗太郎 聴覚診断と聴覚補償 コロナ社							
【評価に関わる情報】							
(評価の基準・方法)							
・ 成績評価基準は本学学則規定のGAP制度に従う。							
・ 定期試験100%とする							

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		100							100
評価 指標	取り込む力・知識	100							100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	聴覚障害とライフステージ	講義（高橋）	配付資料の該当箇所の復習と次の予 習	220分
2	聴能の発達と思考・言語の発達	講義（藤澤）	配付資料	220分
3	聴覚障害の疾患原因と発症時期	講義（高橋）	配付資料	220分
4	小児聴覚障害の諸検査	講義（高橋）	配付資料	220分
5	小児聴覚障害児の発達課題	講義（藤澤）	配付資料	220分
6	小児聴覚障害児の訓練・指導Ⅰ	講義（藤澤）	配付資料	220分
7	小児聴覚障害児の訓練・指導Ⅱ	講義（藤澤）	配付資料	220分
8	小児聴覚障害児の訓練・指導Ⅲ（親への指導）	講義（藤澤）	配付資料	220分

【科目名】		成人聴覚障害学		【担当教員】	高橋 圭三
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	s172	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	takahashik@nur.ac.jp、takahashik@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 月曜、木曜の16：50～	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
成人聴覚障害における各種評価、訓練法、援助方法、補償機器、関係法規、各ライフプランに応じた難聴の支援法などを学ぶ。視覚聴覚二重障害についても、原因、評価、コミュニケーション法、支援法を学ぶ。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
言語聴覚士国家試験受験に必要な科目である。 専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。					
【講義概要】					
(目的)					
成人聴覚障害に対して、言語聴覚士が行う評価方法及びコミュニケーション支援方法など総体的に理解を深めることを目的とする。聴覚障害の評価、特にオーディオグラムの読み方を学び、そこから得られる情報と社会的要因を考慮したうえでの問題点を考察する。また、聴覚障害の原因についての知識を広げるとともに、聴覚障害を持つ人の各種コミュニケーション方法、リハビリテーションについて学ぶ。さらに、ろう文化への理解を深め、同時に心理・社会的困難を理解する。 当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域に関する課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う					
(方法)					
スライド、配布資料、教科書を使用しての講義が中心となります。・試験問題（再試験問題除く）は返却します。					
【一般教育目標 (GIO)】					
・成人聴覚障害の原因、問題、援助方法、関係法規について学ぶ。 ・オーディオグラムから各種疾患や障害、難聴のタイプなどを読み取ることができる。 ・ろう文化について理解を深める。					
【行動目標 (SBO)】					
・成人聴覚障害の原因と問題について説明できる。 ・各疾患や難聴の程度、発症の時期などから、適切なコミュニケーション法を選択、説明できる。 ・オーディオグラムから、平均聴力、聴力型、難聴のタイプ、疾患の予測を行うことができる。 ・視覚聴覚二重障害について説明できる。 ・ろう文化について説明できる					
【教科書・リザーブドブック】					
【参考書】					
藤田郁代監修、中村公枝・城間将江・鈴木恵子『標準言語聴覚障害学 聴覚障害第2版』医学書院（5,200円＋税） 喜多村健・『言語聴覚士のための聴覚障害学』医歯薬出版、2002 年。 ¥4,200					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・成績評価は、記述式試験100％とする。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		100							100
評価 指標	取り込む力・知識	100							100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	成人聴覚障害とは何か 定義、分類、原因	講義	復習：伝音難聴、感音難聴の特徴、 障害部位などについて復習する	220分
2	難聴者のコミュニケーション方法 聴覚補償機器	講義	配布資料の該当項目の復習と次の箇 所の予習	220分
3	オー ジ オ グ ラムの読み方 伝音難聴 と感音難 聴の違い/A-Bgap	講義	配布資料の該当項目の復習と次の箇 所の予習	220分
4	オーディオグラムの読み方 平均聴力/聴力型/疾患別	講義	配布資料の該当項目の復習と次の箇 所の予習	220分
5	関係法規	講義	配布資料の該当項目の復習と次の箇 所の予習	220分
6	ろう文化	講義	配布資料の該当項目の復習と次の箇 所の予習	220分
7	視覚聴覚二重障害	講義	配布資料の該当項目の復習と次の箇 所の予習	220分
8	まとめ	講義	配布資料の該当項目の復習と次の箇 所の予習	220分

【科目名】		補聴器・人工内耳		【担当教員】	大平 芳則
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	s173	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	ohdaira.yoshinori@kuas.ac.jp	
【単位数】	2	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 来学時	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
音響学および聴覚にかかわる基本的な解剖・生理を修得していることを前提とする。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
覚えるのではなく、理解することを心がけて学修に臨んで欲しい。 オンラインでの授業になった場合、シラバスの内容は変更されることがあります。					
【講義概要】					
(目的)					
補聴器と人工内耳を含む人工聴覚器の仕組み、機能、適応、効果と限界について、基礎的な知識を身につける。 当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。					
(方法)					
試験・レポートのフィードバック方法：小テストについては解答例を示す。					
【一般教育目標(GIO)】					
補聴器と人工内耳を含む人工聴覚器の仕組み、機能、適応、効果と限界について、基礎的な知識を身につける。					
【行動目標(SBO)】					
補聴器と人工内耳を含む人工聴覚器の仕組み、機能、適応、効果と限界について、基礎的な知識を述べることができる。					
【教科書・リザーブドブック】					
テキストは指定しない。 プリント（またはPDFファイル）を配付する。					
【参考書】					
1) 関谷芳正、関谷健一 「よくわかる補聴器選び」 八重洲出版 1300円＋税 2) 小寺一興 「補聴器のフィッティングと適用の考え方」 診断と治療社 3200円＋税 3) 新田清一、鈴木大介 「ゼロから始める補聴器診療」 中外医学社 4200円＋税					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		20	80						100
評価 指標	取り込む力・知識	20	80						100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション 補聴器概説： 構造、機能、分類、耳栓	講義	講義内容（配付資料）の復習	220
2	補聴器の構成部品： マイク、アンプ、イヤホン、電池	講義	講義内容（配付資料）の復習	220
3	補聴器の構成部品： 耳栓（イヤモールド）の作成法と機能	講義	講義内容（配付資料）の復習	220
4	イヤモールド： 彩型実習	講義	講義内容（配付資料）の復習	220
5	補聴器の性能と測定： JISの用語 測定される性能とその測定方法	講義	講義内容（配付資料）の復習	220
6	補聴器の増幅： 線形増幅 非線形増幅と圧縮比	講義	講義内容（配付資料）の復習	220
7	補聴器のフィッティング： フィッティング概論	実習	講義内容（配付資料）の復習	220
8	補聴器のフィッティング： フィッティングの実際	実習	講義内容（配付資料）の復習	220

9	補聴器のフィッティング： 適合判定	講義	講義内容（配付資料）の復習	220
10	補聴器その他： 両耳装用の効果・保守と点検のしかた・S/N比の改善、FMシステム、テレコイル・赤外線システム、ハウリング抑制、雑音抑制・RIC	講義	講義内容（配付資料）の復習	220
11	人工内耳概説： 構造としくみ 対象 人工内耳による聞こえの回復（ビデオ視聴）	講義	講義内容（配付資料）の復習	220
12	人工内耳の適応基準と評価： 成人および小児の適応基準 術前評価、術後評価	講義	講義内容（配付資料）の復習	220
13	人工内耳のその他： マッピング（プログラミング）、マイク感度 人工内耳の限界、テレメトリ、生活への影響、 auditory neuropathyと人工内耳	講義	講義内容（配付資料）の復習	220
14	人工聴覚器： 人工中耳 骨導インプラント	講義	講義内容（配付資料）の復習	220
15	補聴器と人工内耳： 国家試験過去問題に挑戦	講義	講義内容（配付資料）の復習	220

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		100							100
評価 指標	取り込む力・知識	100							100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション 聴力検査の分類と検査音、記録用紙、閾値の決定 方法	講義	配付資料の復習	220分
2	純音聴力検査： 準備と予備検査	講義	配付資料の復習	220分
3	純音聴力検査： 本検査の実施手順、平均聴力	講義	配付資料の復習	220分
4	マスキング： 意義、方法	講義	配付資料の復習	220分
5	語音聴力検査： 語音了解閾値検査、語音弁別検査	講義	配付資料の復習	220分
6	閾値を表す単位： dBSPLとdBHL	講義	配付資料の復習	220分
7	インピーダンスオージオメトリ： ティンパノメトリ、耳小骨筋反射検査	講義	配付資料の復習	220分
8	内耳機能検査： リクルートメント現象 SISI検査、自記オージオメトリ	講義	配付資料の復習	220分

9	内耳機能検査： ABLB、メッツテスト	講義	配付資料の復習	220分
10	他覚的聴力検査： 聴性脳幹反応（ABR）、蝸電図	講義	配付資料の復習	220分
11	他覚的聴力検査： 耳音響放射（OAE）、聴性定常反応（ASSR）	講義	配付資料の復習	220分
12	乳幼児聴力検査： BOA、COR、遊戯聴力検査	講義	配付資料の復習	220分
13	スクリーニング検査： 3歳児健診、新生児聴覚スクリーニング	講義	配付資料の復習	220分
14	補聴器適合検査	講義	配付資料の復習	220分
15	耳鳴検査 耳管機能検査	講義	配付資料の復習	220分

【科目名】聴力検査演習		【担当教員】高橋 圭三
【授業区分】専門科目	【授業コード】s175	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】選択	takahashik@nur.ac.jp、takahashik@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】23 コマ	(オフィスアワー) 月曜、木曜の16:50～
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・純音聴力検査、語音聴力検査の検査手順を熟知していることが必要である。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・時間割の組み方によっては、授業内容の順序変更を行う可能性がある。 ・言語聴覚士の国家試験受験に必要な科目である。		
【講義概要】 (目的) 言語聴覚士に必要な聴力検査方法のうち、特に純音聴力検査と語音聴力検査について、的確に実施できるようになる。また、自記オーディオメトリー、SISI検査、インピーダンスオーディオメトリーについて検査手順を実際に経験する。 当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域に関する課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う (方法) 学生同士もしくは教員と実習を行ない、実施手順を身につける。		
【一般教育目標(GIO)】 使用頻度の高い聴力検査について、実習を通じて、臨床現場で対応できる技能を身につける。 【行動目標(SB0)】 純音聴力検査と語音聴力検査が適切に実施できる。		
【教科書・リザーブドブック】 指定しない		
【参考書】 日本聴覚医学会（編） 聴覚検査の実際 南山堂 2009 3400円＋税		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 ・レポート100%		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価 指標	取り込む力・知識			100					100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1～2	ガイダンス 聴力検査とは：講義	講義	講義の復習	各220分
3～5	純音聴力検査：講義	講義	講義の復習	各220分
6～8	純音聴力検査： 実習	実習	レポート作成 本検査の目的、手順、実施結果の評価など	各220分
9～11	語音聴力検査：講義	講義	講義の復習	各220分
11～13	語音聴力検査： 実習	実習	レポート作成 本検査の目的、手順、実施結果の評価など	各220分
14～15	インピーダンスオーディオメトリ：講義	講義	講義の復習	各220分
16～17	インピーダンスオーディオメトリ： 実習	実習	レポート作成 本検査の目的、手順、実施結果の評価など	各220分
18～19	自記オーディオメトリ：講義	講義	講義の復習	各220分

[illegible]